

Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー

Linux、仮想マシンソフトウェア、および Oracle
Solaris オペレーティングシステム設置マニュアル



このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アSEMBル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

はじめに ix

部 I Linux ソフトウェアのインストール

1. Oracle Hardware Installation Assistant (OHIA) を利用した OS のインストール 3
 - OHIA での作業の概要 4
 - OHIA の入手方法 4
 - OHIA のドキュメントリソース 5
2. Linux オペレーティングシステムのインストールの概要 7
 - サポートされる Linux オペレーティングシステム 8
 - Linux インストールの前提条件 9
 - Linux のインストール作業の概要 10
 - SLES 11 のインストールにストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA 11
3. Oracle Enterprise Linux のインストール 13
 - ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した OEL 5 のインストール 14
 - インストールを開始する前に 14
 - ▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した OEL 5 のインストール 15

- PXE ネットワーク環境を使用した OEL 5 のインストール 18
 - インストールを開始する前に 19
 - ▼ PXE ネットワーク起動を使用した OEL 5 のインストール 19
 - OEL のインストール後の作業 20
 - TPM のサポートの設定 20
 - OEL の登録と自動更新の有効化 20

- 4. SUSE Linux Enterprise Server のインストール 21
 - ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 10 または 11 のインストール 22
 - インストールを開始する前に 23
 - ▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES10 SP3 のインストール 23
 - ▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 のインストール 26
 - PXE ネットワーク環境を使用した SLES 10 SP3 または SLES 11 のインストール 32
 - インストールを開始する前に 32
 - ▼ PXE ネットワーク起動を使用した SLES 10 SP3 または 11 のインストール 33
 - SLES のインストール後の作業 34
 - SLES オペレーティングシステムの更新 34
 - ▼ SLES オペレーティングシステムの更新 34
 - TPM のサポートの設定 35

- 5. Red Hat Enterprise Linux のインストール 37
 - ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL5 のインストール 38
 - インストールを開始する前に 38
 - ▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL5 のインストール 39

PXE ネットワーク環境を使用した RHEL5 のインストール	42
インストールを開始する前に	43
▼ ネットワーク PXE 起動を使用した RHEL5 のインストール	43
RHEL のインストール後の作業	44
RHEL の登録と自動更新の有効化	44
TPM サポートの設定	44

部 II 仮想マシンソフトウェアのインストール

6. 仮想マシンソフトウェアのインストールの概要	47
サポートされる仮想マシンソフトウェア	47
VM ソフトウェアのインストールに関する注意事項	48
VM ソフトウェアのインストール作業の概要	49
7. Oracle VM のインストール	51
ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM のインストール	51
インストールを開始する前に	52
▼ ローカルメディアまたはリモートメディアからの Oracle VM Server のインストール	52
▼ Oracle VM Manager のインストール	53
Oracle VM のインストール後の作業	54
Oracle VM ソフトウェアの更新	54
Oracle VM リソースの管理	54

- 8. VMware ESX または ESXi のインストール 55
 - ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した VMware ESX または ESXi のインストール 55
 - インストールを開始する前に 56
 - ▼ ローカルメディアまたはリモートメディアからの VMware ESXi 4.0 のインストール 56
 - ▼ ローカルメディアまたはリモートメディアからの VMware ESX 4.0 のインストール 58
 - VMware ESX および ESXi のインストール後の作業 61
 - VMware ESXi インストールでのネットワークアダプタの設定 61
 - ▼ ネットワークアダプタ設定の構成 61
 - VMware ESXi のインストール後に認識されないローカルストレージドライブ 64
 - ▼ VSphere Client での VMFS データストアの認識 64
 - ESX または ESXi オペレーティングシステムの更新 65
 - VMware リソースの管理 65

部 III Oracle Solaris のインストール

- 9. Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールの概要 69
 - サポートされる Oracle Solaris オペレーティングシステム 69
 - Solaris マニュアルセット 70
 - インストール時の注意事項 70
 - インストール作業の概要 71
- 10. Oracle Solaris 10 のインストール 73
 - ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Solaris 10 のインストール 73
 - インストールを開始する前に 74
 - ▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Solaris 10 のインストール 74

PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Solaris 10 OS のインストール	81
インストールを開始する前に	82
▼ PXE ネットワーク起動を使用した Solaris 10 のインストール	83
Oracle Solaris のインストール後の作業	87
重要な Oracle Solaris パッチのインストール	87
RAID 管理ソフトウェアのインストール	87

部 IV システム管理者のための参照情報

A. サポートされるインストール方法	91
コンソール出力	91
インストール起動メディア	93
インストール先	96
B. サポートされているオペレーティングシステム	97
サポートされているオペレーティングシステム	98
C. 新規インストール時の BIOS のデフォルト設定	99
BIOS の出荷時デフォルト設定の確認	99
インストールを開始する前に	100
▼ 新規インストール時の BIOS 設定の表示または編集	100
D. Tools and Drivers DVD の ISO イメージのダウンロード	103
ISO イメージのダウンロード手順	103
▼ Tools and Drivers DVD イメージのダウンロード	103
索引	105

はじめに

このインストールガイドでは、Linux、仮想マシンソフトウェア、および Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールする手順と、Oracle® の Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーを設定可能および使用可能な状態にするためのソフトウェアの初期設定手順について説明します。

このマニュアルは、技術者、システム管理者、承認サービスプロバイダ (Authorized Service Provider、ASP)、およびオペレーティングシステムのインストールについての経験を持つユーザーを対象としています。

ここでは、次のトピックについて説明します。

x ページの「関連ドキュメント」

xii ページの「マニュアル、サポート、およびトレーニング」

xii ページの「表記上の規則」

xiii ページの「ドキュメントのコメント」

製品のアップデート

Oracle の Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーの製品アップデートをダウンロードするには、次の Web サイトにアクセスしてください。

(<http://www.sun.com/download/index.jsp>)

ダウンロードサイトの「Hardware Drivers」セクションで、「x64 Servers & Workstations」をクリックします。Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーのサイトから、ファームウェアとドライバのアップデート、および DVD の .iso イメージをダウンロードできます。

関連ドキュメント

次の表に一覧表示する関連マニュアルは、オンラインで利用できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4170m2#hic>

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4270m2#hic>

タイトル	コンテンツ	パーツ番号	形式
『Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー 製品ノート』	サーバーに関する最新情報	821-1629	PDF HTML
『Sun Fire X4170 M2 and X4270 M2 Servers Getting Started Guide』	サーバーのセットアップに関する基本的なインストール情報	821-0480	PDF 印刷
『Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー設置マニュアル』	サーバーのセットアップに関する詳細なインストール情報	821-1620	PDF HTML 印刷物
『Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー Linux、仮想マシンソフトウェア、および Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』	Linux、仮想マシンソフトウェア、および Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール手順	821-1623	PDF HTML
『Windows オペレーティングシステムの Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー設置マニュアル』	Windows Server オペレーティングシステムのインストール手順	821-1626	PDF HTML
『Sun Fire X4170 M2 Server Service Manual』	Sun Fire X4170 M2 サーバーの保守とアップグレードに関する情報と手順	821-0486	PDF HTML
『Sun Fire X4270 M2 Server Service Manual』	Sun Fire X4270 M2 サーバーの保守とアップグレードに関する情報と手順	821-0488	PDF HTML
『Sun Installation Assistant 2.3 through 2.4 User's Guide for X64 Servers』	Windows および Linux オペレーティングシステムをインストールするための Oracle Hardware Installation Assistant の使用手順	821-0694	PDF HTML
『Sun x64 サーバー診断ガイド』	サーバーの診断およびトラブルシューティングに関する情報	820-6750	PDF HTML

タイトル	コンテンツ	パーツ番号	形式
『Sun Server CLI ツールおよび IPMItool 2.0 ユーザーズガイド』	x64 サーバーに共通のアプリケーションおよびユーティリティーの使用方法	821-1600	PDF HTML
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 マニュアルセット (以前の Sun Integrated Lights Out Manager)	ILOM 3.0 をサポートするサーバーおよびサーバーモジュールに共通の ILOM 機能と作業	820-7382 820-7370 820-7373 820-7376 820-6413	PDF HTML
『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Supplement for Sun Fire X4170 M2 and X4270 M2 Servers』	Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーに固有の ILOM 3.0 に関する情報	821-0702	PDF HTML
『Sun Fire X4170 M2 and X4270 M2 Servers Safety and Compliance Guide』	サーバーに対するハードウェアの安全性および適合性の情報	821-0490	PDF
Sun ハードウェアシステムの重要な安全性に関する情報	ハードウェアの安全性とコンプライアンスに関するすべての Sun 製ハードウェアシステム向けの多言語情報	821-1590	印刷

これらのマニュアルの一部については、表の前に示した Web サイトから翻訳版を入手できます。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

機能	URL
マニュアル	http://docs.sun.com
サポート	http://www.sun.com/support/
トレーニング	http://www.sun.com/training/

表記上の規則

書体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を実行します。 <code>% You have mail.</code>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	<code>% su</code> Password:
<i>AaBbCc123</i>	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	<code>rm filename</code> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	<code>% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`</code>

ドキュメントのコメント

ドキュメントの品質向上のため、お客様のご意見、ご要望をお受けしております。コメントは、次の Web サイトで「Feedback [+]」のリンクを使用してお送りください。

(<http://docs.sun.com>)

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

『Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー Linux、仮想マシンソフトウェア、および Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』、
Part No.821-1623-10

部 I Linux ソフトウェアのインストール

Oracle の Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーに Linux オペレーティングシステムをインストールする方法を、この節に示すトピックで説明します。

説明	リンク
<p>初心者または経験を積んだユーザー： OHIA を利用して Linux オペレーティングシステムのインストールを実行します。 OHIA は、適切なシステムドライバとプラットフォームに固有のソフトウェアを提供します。</p>	<p>第 1 章 Oracle Hardware Installation Assistant (OHIA) を利用した OS のインストール</p>
<p>経験を積んだユーザー： Linux オペレーティングシステムと必要なシステムドライバを手動でインストールします。</p>	<ul style="list-style-type: none">• 第 2 章 概要• 第 3 章 Oracle Enterprise Linux のインストール• 第 4 章 SUSE Enterprise Linux のインストール• 第 5 章 Red Hat Enterprise Linux のインストール
<p>参照情報： これらのトピックを必要に応じて参照し、Linux オペレーティングシステムのインストールを実行または完了します。</p>	<ul style="list-style-type: none">• 付録 A インストール方法• 付録 B サポートされているオペレーティングシステム• 付録 C 新規インストール時の BIOS のデフォルト設定• 付録 D Tools and Drivers DVD の ISO イメージのダウンロード

第1章

Oracle Hardware Installation Assistant (OHIA) を利用した OS のインストール

OHIA はオペレーティングシステムのインストール作業を簡単にします。OHIA を利用する場合、準備が必要なものは、サーバーでサポートされている Linux または Windows OS ディストリビューションメディアのライセンスを受けたコピーだけです。ソフトウェアや必要となるサーバー固有のドライバは、すべて OHIA によって提供されます。グラフィカルなウィザードのインタフェースと柔軟なインストールオプションにより、OHIA はサーバーの配備を簡単にし、配備の速度と信頼性を向上させます。

OHIA を使用するには、単純にサーバーの CD ドライブ、USB フラッシュドライブ、またはネットワークイメージから OHIA プログラムを起動します。利用可能な OHIA の最新のアップデートを確認してください。使用する OS のディストリビューションをメニューから選択し、画面に表示される指示に従います。OHIA はシステムをスキャンして、サーバーコンポーネントを設定するために必要なドライバがあることを確認します [1]。また、利用可能な最新のドライバを OHIA から確認するオプションも用意されています。OHIA は、必要なときに適切なメディア、または OS のインストール中に必要なその他の情報 (ライセンスキーなど) の入力を要求します。

注 - [1] 一部のオプションカードのドライバは、サーバーにはダウンロードされますが、手動によるインストールが必要となります。OHIA は定期的に機能強化されているため、OHIA の情報ページで最新のアップデートとサポートされる機能を確認するようにしてください (<http://www.sun.com/systemmanagement/sia.jsp>)。

本章で説明するトピックは次のとおりです。

- 4 ページの「OHIA での作業の概要」
- 4 ページの「OHIA の入手方法」
- 5 ページの「OHIA のドキュメントリソース」

OHIA での作業の概要

OHIA を使用して、次の作業を実行できます。

注 - 次に示す OHIA のインストールおよび回復作業のサポートはサーバーに依存し、サーバーによって異なる場合があります。

- Oracle の Sun x64 サーバーへの Linux または Windows オペレーティングシステムのインストールの実行。OHIA から適切なドライバとプラットフォームに固有のソフトウェアが提供されるため、ドライバディスクを別に作成する必要がありません。
- 内部ストレージデバイスでの RAID-1 ボリュームの作成 (オプション)。
- システムの Integrated Lights Out Manger (ILOM) サービスプロセッサ (Service Processor, SP)、BIOS、およびストレージデバイスのファームウェアのアップグレード (サーバーの OS にかかわらず)。オプション)。
- 最新のファームウェアとドライバによる OHIA セッションの更新 (オプション)。
- 破損しているかアクセス不能の ILOM サービスプロセッサの回復 (オプション)。

OHIA の入手方法

OHIA は、ほとんどのサーバープラットフォームに対して OHIA DVD で提供されています。また、Web からダウンロードすることもできます。OS の最新のバージョンをサポートするように、定期的なアップデートを利用できます。各サーバープラットフォーム用の最新バージョンの OHIA をダウンロードするには、次の Web サイトで OHIA の情報ページを参照してください。

(<http://www.sun.com/systemmanagement/sia.jsp>)

OHIA のドキュメントリソース

OHIA を使用して x64 サーバーに Windows または Linux オペレーティングシステムをインストールすることを決定した場合は、詳細なインストール手順とフォーラムのディスカッションについて、次のリソースを参照してください。

- 『Sun Installation Assistant 2.3 through 2.4 User's Guide for X64 Servers』
(<http://docs.sun.com/app/docs/prod/install.x64svr?l=en&a=view>)
- Sun BigAdmin の機能に関する記事: Sun Installation Assistant の使用方法
(http://www.sun.com/bigadmin/features/articles/install_assistant.jsp)
- 一般的なインストールに関するディスカッションフォーラム
(<http://forums.sun.com/forum.jspa?forumID=832>)

第2章

Linux オペレーティングシステムのインストールの概要

この章では、Linux オペレーティングシステムをサーバーに手動でインストールする方法の概要について説明します。

注 – この場合の「手動」とは、Oracle Hardware Installation Assistant (OHIA) を使用せずに、このガイドで説明する手順に従ってインストールを実行するという意味です。OHIA を利用して Linux をインストールする場合は、このガイドの[第1章](#)を参照してください。

本章で説明するトピックは次のとおりです。

- [8 ページの「サポートされる Linux オペレーティングシステム」](#)
- [9 ページの「Linux インストールの前提条件」](#)
- [10 ページの「Linux のインストール作業の概要」](#)

サポートされる Linux オペレーティングシステム

Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーでは、次の Linux オペレーティングシステムがサポートされます。

Linux OS	版
Oracle	x86 版 Enterprise Linux 5.4 (64 ビット)
RedHat	X86 版 Enterprise Linux 5.4 (64 ビット)
SUSE	Linux Enterprise Server 10 SP3 Linux Enterprise Server 11 (64 ビット)

Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの完全な最新リストについては、次の Web サイトを参照してください。

- (<http://www.sun.com/servers/x64/x4170/os.jsp>)
- (<http://www.sun.com/servers/x64/x4170/os.jsp>)

Linux インストールの前提条件

サーバーへの Linux オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次の重要な注意事項について確認してください。

表 2-1 Linux オペレーティングシステムのインストールの前提条件

要件	説明	詳細は、次を参照してください。
サーバーがセットアップされ稼働している	サーバーがラックに設置されて電源が投入され、SP との通信が確立しています。	<ul style="list-style-type: none">• Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー設置マニュアル (821-1620)
Linux インストールプログラムを起動できるように配備方法が設定されている	Linux オペレーティングシステムのインストールを配備するためのガイドライン。	<ul style="list-style-type: none">• 付録 A
RAID ボリュームの作成	起動ドライブを RAID 構成の一部にする場合は、ドライブで RAID ボリュームを設定する必要があります。Windows をインストールする前に、LSI 統合 RAID コントローラのセットアップユーティリティを使用します。	<ul style="list-style-type: none">• 『LSI MegaRAID Software SAS User's Guide』 (http://www.lsi.com/support/sun/)
OS の新規インストール時の BIOS 設定の検証	Linux オペレーティングシステムをインストールする前に、BIOS が出荷時のデフォルトプロパティに設定されていることを確認するようにしてください。	<ul style="list-style-type: none">• 付録 C
Linux ベンダーのドキュメント	Linux のインストールに適切なベンダーのドキュメントを入手します。 ベンダーのドキュメントを、このガイドで説明するインストール手順と一緒に使用することをお勧めします。	<ul style="list-style-type: none">• (http://www.oracle.com/technology/documentation/index.html)• (http://www.novell.com/documentation/suse/)• (http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/)

表 2-1 Linux オペレーティングシステムのインストールの前提条件 (続き)

要件	説明	詳細は、次を参照してください。
Tools and Drivers DVD	サーバーに付属している Tools and Drivers DVD を用意する必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> • (http://www.sun.com/servers/x64/x4170/downloads.jsp) • (http://www.sun.com/servers/x64/x4270/downloads.jsp)
SLES 11 - LSI ストレージのフロッピーイメージまたはフロッピーディスクの準備	SLES 11 のインストールメディアには、Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe HBA オプション (SG-SAS6-INT-Z または SG-SAS6-EXT-Z) 用の LSI デバイスドライバが含まれていません。これらの SAS PCIe HBA オプションがインストールされている場合は、インストール中にフロッピーイメージまたはフロッピーディスクから、HBA オプション用の LSI 外部ストレージドライバをマウントする必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> • 11 ページの「SLES 11 のインストールにストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA」
最新情報の入手	『Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー製品ノート』を参照して、サポートされているオペレーティングシステムソフトウェアとパッチに関する最新情報を入手します。	<ul style="list-style-type: none"> • 『Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー 製品ノート』 (821-1629)

Linux のインストール作業の概要

Linux オペレーティングシステムをインストールするには、次に示す作業をすべて順番に実行します。

- Linux オペレーティングシステムのインストールメディアとドキュメントを入手します。Linux のインストールプログラムは、適切なベンダーの Web サイトからダウンロードできます。たとえば、次の Web サイトを利用できます。
 - Oracle Enterprise Linux の場合: (<http://edelivery.oracle.com/linux>)
 - SUSE Linux Enterprise Server の場合: (<http://www.novell.com>)
- 必要な場合は、提供されている Tools and Drivers DVD を入手するか、付録 D の説明に従ってサーバーの最新ドライバをダウンロードします。

SLES 11 をインストールするときに、サーバーに Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe HBA がインストールされている場合は、SLES 11 のインストールを実行する前に、HBA オプション用の LSI ストレージドライバをフロッピーディスクまたはフロッピーイメージにコピーする必要があります。詳細は、11 ページの「SLES 11 のインストールにストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA」を参照してください。

3. [付録 A](#) を参考にして、Linux を配備するためのインストール方法を選択し設定します。
4. 次の節で説明する手順に従って、Linux Server オペレーティングシステムの手動インストールを実行します。
 - Oracle Enterprise Linux の場合: [第 3 章](#)
 - SUSE Linux Enterprise Server の場合: [第 4 章](#)
 - Red Hat Linux Enterprise Server の場合: [第 5 章](#)
5. 次の節で説明するオペレーティングシステムに固有の手順に従って、インストール後の作業を実行します。
 - [20 ページ](#)の「OEL のインストール後の作業」
 - [34 ページ](#)の「SLES のインストール後の作業」
 - [44 ページ](#)の「RHEL のインストール後の作業」

SLES 11 のインストールにストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA

SLES 11 インストールメディアには、[表 2-2](#) に示す SAS PCIe HBA オプション用の LSI 外部ストレージドライバが含まれていません。

表 2-2 SLES 11 用の LSI 外部ストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA

SAS PCIe HBA オプション	オプション番号	インストール中に必要なドライバ
Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe HBA (内蔵)	SG-SAS6-INT-Z	LSI Adapter SAS Falcon
Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe HBA (外付け)	SG-SAS6-EST-X	LSI Adapter SAS Falcon

[表 2-2](#) に示す SAS PCIe HBA オプションのいずれかが取り付けられているサーバーに SLES 11 をインストールする場合は、SLES 11 のインストール処理中に、HBA オプション用の LSI 外部ストレージドライバをフロッピーディスクまたはフロッピーイメージからマウントする必要があります。

SLES 11 のインストールを開始する前に、次のいずれかの方法で LSI 外部ストレージドライバのフロッピーディスクまたはフロッピーイメージを準備してください。

- **フロッピーディスクをマウントする。** Tools and Drivers DVD にある LSI ストレージのフロッピーイメージを使用します。続いて、Sun ILOM リモートコンソールからフロッピーディスクをデバイスとしてマウントします。
- **フロッピーイメージをマウントする。** Tools and Drivers DVD にある LSI ストレージのフロッピーイメージをネットワーク上の場所にコピーし、このフロッピーイメージを Sun ILOM リモートコンソールからマウントします。

Tools and Drivers DVD 上の LSI ストレージのフロッピーイメージは、次のディレクトリにあります。Linux/SLES/SLES11/FloppyImages/64bit

SLES 11 のインストール中に LSI 外部ストレージドライバを読み込む手順については、[26 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 のインストール」](#)の手順 6 で説明します。

Tools and Drivers DVD をお持ちでない場合は、Tools and Drivers DVD の ISO イメージをダウンロードできます。詳細は、[付録 D](#) を参照してください。

注 – SLES 11 のインストールメディアには、Sun Storage SAS PCIe **RAID** HBA オプションの SG-SAS6-R-INT-Z および SG-SAS6-R-INT-Z で必要な LSI 外部ストレージドライバが含まれています。

第3章

Oracle Enterprise Linux のインストール

この章では、x86 (64 ビット版) Oracle Enterprise Linux 5{239} (OEL 5) をインストールする方法について説明します。

注 – サーバーに Oracle Enterprise Linux (OEL) オペレーティングシステムをインストールする場合は、Oracle Hardware Installation Assistant (OHIA) を使用することを強くお勧めします。OHIA を使用すると、必要に応じて、デバイスドライバをインストールできます。OHIA を使用したオペレーティングシステムのインストールについては、[第 1 章](#)を参照してください。

この章では、次の項目について説明します。

- [14 ページ](#)の「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した OEL 5 のインストール」
- [18 ページ](#)の「PXE ネットワーク環境を使用した OEL 5 のインストール」
- [20 ページ](#)の「OEL のインストール後の作業」

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した OEL 5 のインストール

次の手順では、OEL オペレーティングシステムのインストールをローカルまたはリモートのメディアから起動する方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから OEL のインストールメディアを起動することを前提にしています。

- OEL 5.4 以降のリリースの CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- OEL 5.4 以降のリリースの ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – PXE 環境からインストールメディアを起動する場合は、[18 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した OEL 5 のインストール」](#) で手順を確認してください。

OEL のインストール方法については、OEL のドキュメントを参照してください。

インストールを開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を満たしている必要があります。

- オペレーティングシステムをインストールするための前提条件をすべて満たしている。これらの前提条件については、[第 2 章](#)を参照してください。
- インストールを開始する前に、使用するインストール方法 (コンソール、起動メディア、インストール先など) を決定して、設定が完了している。これらの設定に関する要件については、[付録 A](#) を参照してください。

この手順の完了後、この章で後述する、インストール後に必要な作業を確認して実行する必要があります。詳細は、[20 ページの「OEL のインストール後の作業」](#) を参照してください。

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した OEL 5 のインストール

1. インストールメディアが起動可能な状態であることを確認します。
 - ディストリビューション CD/DVD を使用する場合。ローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに、Oracle 5 ディストリビューションメディアの起動ディスク (CD #1 または単一の DVD) を挿入します。
 - ISO イメージを使用する場合。ISO イメージが使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションで起動ディスクのイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「デバイス (Device)」メニュー --> 「CD-ROM Image」)。
 - インストールメディアの設定方法については、93 ページの「インストール起動メディア」を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。

例:

- ILOM Web インタフェースで、「リモート制御 (Remote Control)」 --> 「リモート電源制御 (Remote Power Control)」タブを選択し、次に「Select Action」リストボックスから「リセット (Reset)」を選択します。
- ローカルサーバーの前面パネルにある電源ボタンを (約 1 秒) 押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。
- サーバー SP の ILOM CLI で、次のように入力します。**reset /SYS**
BIOS 画面が表示されます。

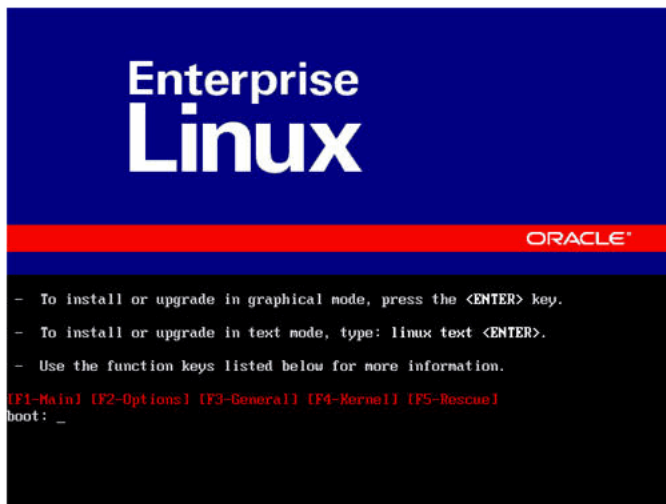
注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、F8 キーを押して、OEL のインストールで使用する一時起動デバイスを指定します。
「起動デバイス (Boot Device)」メニューが表示されます。
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、最初の起動デバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択して、Enter キーを押します。
「起動デバイス (Boot Device)」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID で構成されています。
数秒後、OEL 5 インストールのスプラッシュ画面が表示されます。スプラッシュ画面の下半分に、説明、ファンクションキー、および起動プロンプトが表示されます。

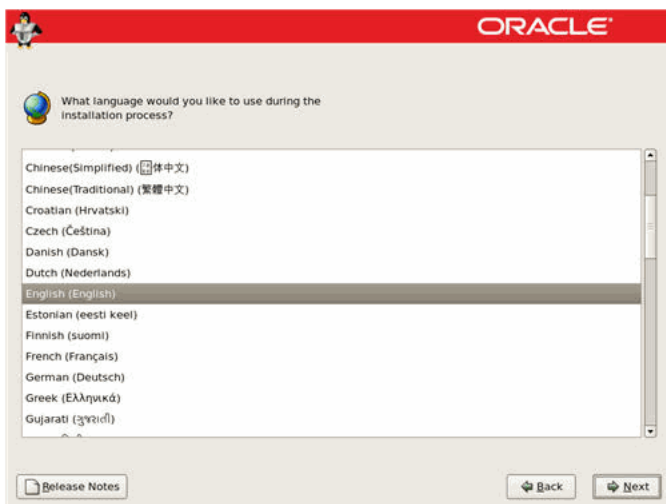
- Oracle Enterprise Linux のスプラッシュ画面で、Enter キーを押して標準的な対話式インストールを続けます。

または、テキストモードで、次のコマンドを入力します。

```
boot: linux text
```

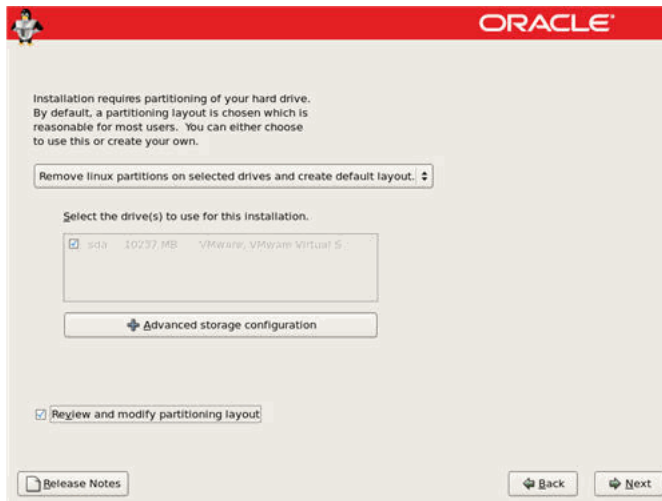


- 「言語の選択 (Language)」画面で、適切な言語を選択して、「次へ (Next)」をクリックします。



「キーボードタイプ (Keyboard Type)」画面が表示されます。

7. 「キーボードタイプ (Keyboard Type)」画面で、適切なキーボード設定を選択してから、「OK」をクリックします。
「インストール方法 (Installation Method)」画面が表示されます。
8. 「インストール方法 (Installation Method)」画面で、適切なインストール方法 (「Local CDROM」または「NFS Image」) を選択し、「OK」をクリックします。
「CD が見つかりました (CD Found)」画面が表示されます。
9. 「CD が見つかりました (CD Found)」画面で、「スキップ (Skip)」をクリックします。
「Oracle Enterprise Linux 5」画面が表示されます。
10. 「Oracle Enterprise Linux 5」画面で、「Next (次へ)」をクリックします。
「インストール番号 (Installation Number)」ダイアログが表示されます。
11. 「インストール番号 (Installation Number)」ダイアログで、インストール番号を入力するか「Skip entering installation number」をクリックし、「OK」をクリックします。
「ディスクパーティション設定 (Disk Partition Setup)」画面が表示されます。
12. 「ディスクパーティション設定 (Disk Partition Setup)」画面で、次の手順に従います。
 - a. 「Remote Linux partition on selected drives and create default layout」のオプションを選択するか、Disk Druid の「Create custom layout」オプションを使用して手動でディスクをパーティションに分割し、「次へ (Next)」をクリックします。



- b. Oracle のディスクパーティション設定の画面に表示される手順を参照して、必要に応じてディスクをパーティションに分割します。

注 – Oracle Solaris OS がディスクにインストール済みの場合は、ディスクをパーティションに分割してインストール済みの OS を削除するか、インストール済みの OS を削除せずにディスクをパーティションに分割し、デュアルブートオペレーティングシステムをサポートすることもできます。

13. 画面上の指示と Oracle のドキュメントに従って、Oracle インストールの基本設定を続行します。
14. Oracle インストールの基本設定が完了したら、次に示すインストール後の作業を実行します。
 - a. システムで自動更新を設定します。

詳細は、Oracle のドキュメントを参照してください。
 - b. 必要な場合は、OEL 5.4 用の最新の訂正とバグ修正をダウンロードしてインストールします。

詳細は、Oracle のドキュメントを参照してください。
 - c. この章の後半で説明する、インストール後の作業を確認し、必要に応じて実行します。

[20 ページの「OEL のインストール後の作業」](#)を参照してください。

PXE ネットワーク環境を使用した OEL 5 のインストール

この節では、PXE ネットワーク環境から OEL 5 を起動する方法について説明します。ここでは、次のいずれかのソースからインストールメディアを起動することを前提にしています。

- OEL 5.4 CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- OEL 5.4 の ISO DVD イメージまたは KickStart イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – KickStart は自動インストールツールです。システム管理者はこのツールを利用して、通常は一般的な Oracle Linux のインストール中に入力される、インストールと設定のパラメータの一部またはすべての設定値を含めた、単一のイメージを作成できます。通常、KickStart イメージは 1 つのネットワークサーバー上に配置され、インストール時に複数のシステムによって読み取られます。

インストールを開始する前に

OEL PXE インストールを実行する前に、次の要件を満たす必要があります。

- KickStart イメージを使用してインストールを行う場合、次の操作が必要です。
 - KickStart ファイルを作成します。
 - KickStart ファイルを含む起動メディアを作成するか、またはネットワーク上で KickStart ファイルを使用できるようにします。
- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアを起動するには、次の操作が必要です。
 - ネットワーク (NFS, FTP, HTTP) サーバーを、インストールツリーをエクスポートできるように設定します。
 - TFTP サーバーで PXE 起動に必要なファイルを設定します。
 - PXE 設定から起動するように、サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを設定します。
 - DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を設定します。

詳細は、次の Web サイトで Oracle Enterprise Linux 5.4 の PXE ネットワークのインストール手順を参照してください。(<http://www.oracle-base.com/articles/linux/PXENetworkInstallations.php>)

▼ PXE ネットワーク起動を使用した OEL 5 のインストール

1. PXE ネットワーク環境が正しく設定され、OEL のインストールメディアを PXE 起動で使えることを確認します。
2. サーバーの電源をリセットします。

例:

- **ILOM Web インタフェース**で、「リモート制御 (Remote Control)」--> 「リモート電源制御 (Remote Power Control)」タブを選択し、次に 「Select Action」 リストボックスから 「リセット (Reset)」 を選択します。
- ローカルサーバーの前面パネルにある電源ボタンを押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
- サーバー **SP** の **ILOM CLI** で、次のように入力します。**reset /SYS**

BIOS 画面が表示されます。

注 – 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. F8 キーを押して、一時起動デバイスを指定します。
「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示され、使用可能な起動デバイスが一覧表示されます。
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、PXE ネットワークインストールサーバーと通信するように設定されたネットワークポートを選択します。
ネットワークブートローダーが読み込まれ、起動プロンプトが表示されます。数秒後、インストールカーネルの読み込みが開始されます。
5. インストールを完了するには、15 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した OEL 5 のインストール」の手順 5 を参照してください。

OEL のインストール後の作業

OEL のインストールを完了したら、次に示すインストール後の作業を確認し、使用しているシステムで該当する作業を必要に応じて実行するようにしてください。

- 20 ページの「TPM のサポートの設定」
- 20 ページの「OEL の登録と自動更新の有効化」

TPM のサポートの設定

Oracle Enterprise Linux に用意されている Trusted Platform Module (TPM) 機能セットを使用する場合は、この機能をサポートするようにサーバーを設定する必要があります。手順については、各サーバーモデルのサービスマニュアルを参照してください。

- 『Sun Fire X4170 M2 Server Service Manual』(8221-0486)
- 『Sun Fire X4270 M2 Server Service Manual』(821-0488)

注 – TPM を使用すると、サーバーの TPM セキュリティハードウェアを管理できます。この機能の実装については、Oracle Enterprise Linux に用意されている TPM のドキュメントを参照してください。

OEL の登録と自動更新の有効化

OEL をインストールしたあと、システムを Oracle に登録してサブスクリプションを有効にし、ソフトウェアの自動更新を受信するようにしてください。詳細は、Oracle Linux のサポート (<http://www.oracle.com/support/purchase.html>) を参照してください。

第4章

SUSE Linux Enterprise Server のインストール

この章では、x86 (64 ビット) 用の SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 10 SP3 および 11 (またはそれ以降のリリース) をインストールする方法について説明します。

注 – サーバーに SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムをインストールする場合は、Oracle Hardware Installation Assistant (OHIA) を使用することを強くお勧めします。OHIA を使用すると、必要に応じて、デバイスドライバをインストールできます。OHIA を使用したオペレーティングシステムのインストールについては、[第 1 章](#)を参照してください。

この章では、次の項目について説明します。

- [22 ページ](#)の「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 10 または 11 のインストール」
- [32 ページ](#)の「PXE ネットワーク環境を使用した SLES 10 SP3 または SLES 11 のインストール」
- [34 ページ](#)の「SLES のインストール後の作業」

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 10 または 11 のインストール

次の手順では、SLES 10 SP3 または 11 オペレーティングシステムをローカルまたはリモートのメディアから起動する方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから SLES 10 SP3 または 11 のインストールメディアを起動することを前提にしています。

- SLES 10 SP3 または 11 以降のリリースの CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- SLES 10 SP3 または 11 以降のリリースの ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – PXE 環境からインストールメディアを起動する場合は、[32 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した SLES 10 SP3 または SLES 11 のインストール」](#)で起動手順を確認してください。

ローカルまたはリモートのメディアを使用して SLES 10 SP3 または 11 をインストールする手順については、次のトピックを参照してください。

- [23 ページの「インストールを開始する前に」](#)
- [23 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES10 SP3 のインストール」](#)
- [26 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 のインストール」](#)

SLES 10 SP3 または 11 のインストール方法については、次の Novell の Web サイトにある SUSE Linux Enterprise Server のマニュアルセットを参照してください。
(<http://www.novell.com/documentation/suse>)

インストールを開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を満たしている必要があります。

- このオペレーティングシステムをインストールするための前提条件をすべて満たしている。これらの前提条件については、[第 2 章](#)を参照してください。
- インストールを開始する前に、SLES インストールメディアを起動するためのインストール方法 (コンソール、起動メディア、インストール先など) を決定して、設定が完了している。これらの設定に関する要件については、[付録 A](#)を参照してください。

この手順の完了後、この章で後述する、インストール後に必要な作業を確認して実行する必要があります。詳細は、[34 ページの「SLES のインストール後の作業」](#)を参照してください。

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES10 SP3 のインストール

1. インストールメディアを起動できることを確認します。

- **ディストリビューション CD/DVD を使用する**場合。ローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに、SLES10-SP3 起動ディスク (CD #1 または DVD) を挿入します。
- **ISO イメージを使用する**場合。ISO イメージが使用可能であり、Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションで起動ディスクのイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「デバイス (Devices)」メニュー --> 「CD-ROM Image」)。

インストールメディアを設定する方法については、[付録 A](#)を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。

例:

- **ILOM Web インタフェース**で、「リモート制御 (Remote Control)」--> 「リモート電源制御 (Remote Power Control)」タブを選択し、次に「操作の選択 (Select Action)」リストボックスから「リセット (Reset)」オプションを選択します。
- **ローカルサーバーの前面パネル**にある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
- **サーバー SP の ILOM CLI**で、次のように入力します。**reset /SYS**
BIOS 画面が表示されます。

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、F8 キーを押して、SLES のインストールで使用する一時起動デバイスを指定します。
「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示されます。
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、最初の起動デバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択して、Enter キーを押します。
「起動デバイス (Boot Device)」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。
数秒後、SUSE の最初の起動画面が表示されます。
5. 最初の SUSE 起動画面で、Tab キーを使用して 2 番目のオプション「インストール (Installation)」を選択し、Enter キーを押します。
このオプションを使用すると、ユーザーによる通常の対話式インストールプロセスに進みます。
「言語の選択 (Language)」画面が表示されます。

注 - 「言語の選択 (Language)」画面の表示には、数分かかることがあります。

6. 「言語の選択 (Language)」画面で、適切な言語オプションを選択して、「次へ (Next)」をクリックします。
「ライセンス契約 (License Agreement)」画面が表示されます。
7. 「SUSE Linux Novell ライセンス契約 (SUSE Linux Novell License Agreement)」画面で、「同意する (Accept)」をクリックします。
SUSE YaST インストールプログラムが初期化されます。YaST のグラフィック形式のインストール画面が表示されます。
AutoYaST ファイルの設定によっては、「YaST 言語選択 (YaST Language Selection)」画面が表示されることがあります。
8. 「YaST 言語選択 (YaST Language Selection)」画面が表示される場合は、使用する言語を選択してください。
AutoYaST ファイルの設定によっては、「YaST インストールモード (YaST Installation Mode)」画面が表示されることもあります。
9. 「YaST インストールモード (YaST Installation Mode)」画面が表示された場合は、「新規インストール (New Installation)」を選択し、「OK」をクリックして続行します。
システムのハードウェアが検出されます。「YaST インストールの設定 (YaST Installation Settings)」画面が表示されます。

10. 「YaST インストールの設定 (YaST Installation Settings)」画面で、次の手順を実行します。
 - a. 「パーティション分割 (Partitioning)」オプションをクリックします。
 - b. 「カスタムパーティションを作成する (Create Custom Partition)」を選択し、「OK」をクリックします。
 - c. 適切な構成になるように、ディスクにパーティションを作成します。
詳細は、YaST のパーティション作成に関する説明を参照してください。

注 – Solaris OS がディスクにインストール済みの場合は、ディスクをパーティションに分割して Solaris を削除するか、Solaris を削除せずにディスクをパーティションに分割し、デュアルブートオペレーティングシステムをサポートすることもできます。

11. SLES OS のすべてのファイルがインストールされてシステムが再起動されるまで、インストールの基本設定を続行します。
12. 基本的なインストールの設定が終了したら、Yast ドキュメントを参照して、次の作業を実行します。
 - a. 使用するアカウントのパスワードを作成します。
 - b. インターネットアクセスおよびネットワークの設定を行い、テストします。
 - c. OS を登録して、利用できるアップデートをオペレーティングシステムにダウンロードします。
または、[34 ページの「SLES オペレーティングシステムの更新」](#)を参照して SLES 10 SP3 OS を手動で更新します。
13. この章の後半で説明する、インストール後の作業を確認し、必要に応じて実行します。
[34 ページの「SLES のインストール後の作業」](#)を参照してください。

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 のインストール

1. インストールメディアを起動できることを確認します。
 - ディストリビューション CD/DVD を使用する場合。ローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに、SLES 11 起動ディスク (CD #1 または DVD) を挿入します。
 - ISO イメージを使用する場合。ISO イメージが使用可能であり、Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションで起動ディスクのイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「デバイス (Devices)」メニュー --> 「CD-ROM Image」)。

インストールメディアを設定する方法については、付録 A を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。

例:

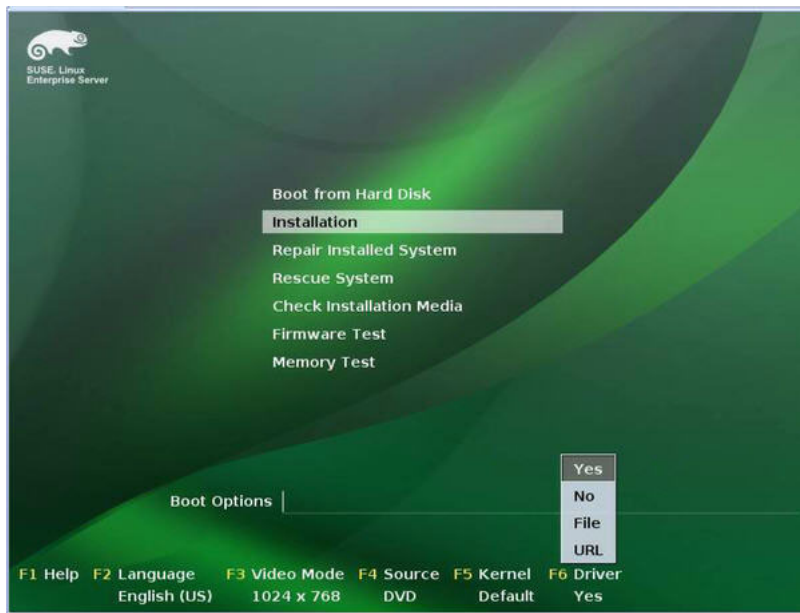
- ILOM Web インタフェースで、「リモート制御 (Remote Control)」 --> 「リモート電源制御 (Remote Power Control)」タブを選択し、次に「Select Action」リストボックスから「リセット (Reset)」を選択します。
- ローカルサーバーの前面パネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
- サーバー SP の ILOM CLI で、次のように入力します。 **reset /SYS**
BIOS 画面が表示されます。

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、F8 キーを押して、SLES のインストールで使用する一時起動デバイスを指定します。

「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示されます。
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、最初の起動デバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択して、Enter キーを押します。

「起動デバイス (Boot Device)」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。数秒後、最初の SUSE 起動画面が表示されます。



5. 最初の SUSE 起動インストール画面で、次のいずれかの操作を行います。

- **Sun Storage 6 G/bs SAS PCIe HBA 構成 (SG-SAS6-INT-Z または SG-SAS6-EXT-Z)** を備えていないシステムでは、Tab キーを使用して 2 番目のオプションの「インストール (Installation)」を選択し、Enter キーを押します。

「ようこそ (Welcome)」画面が表示されます。手順 7 に進みます。

または

- **Sun Storage 6 G/bs SAS PCIe HBA (SG-SAS6-INT-Z または SG-SAS6-EXT-Z)** 構成を備えたシステムでは、F6 キーを押して適切な LSI 外部ストレージドライバを読み込みます。

「Driver Update Medium」ダイアログが表示されます。手順 6 に進みます。

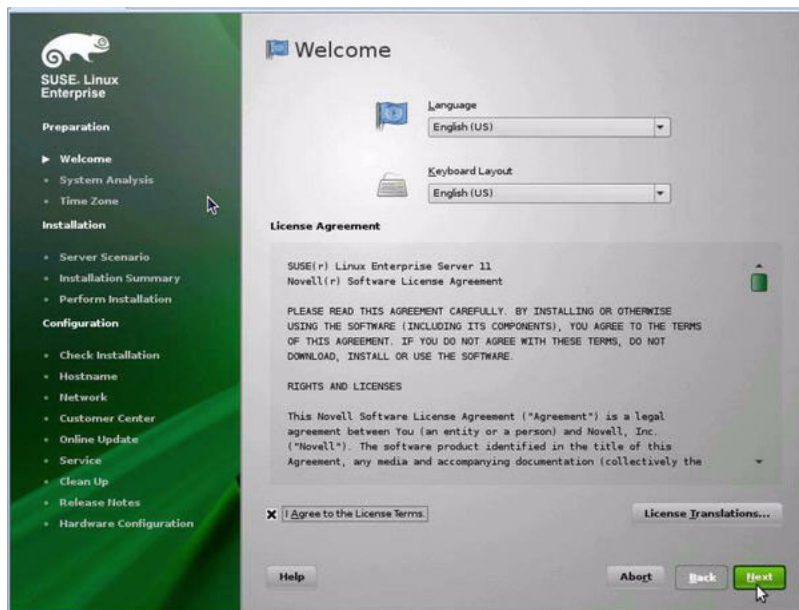
注 – SLES 11 のインストールを開始する前に、LSI 外部ストレージドライバを読み込むためのフロッピーストレージメディアをマウントしておくようにしてください。インストールの前に LSI フロッピーストレージメディアをマウントする方法については、11 ページの「[SLES 11 のインストールにストレージドライバを必要とする SAS PCIe HBA](#)」を参照してください。



6. (SAS PCIe HBA 構成の LSI ストレージドライバのみ) 次の手順を実行して、Sun Storage 6 G/bs SAS PCIe HBA オプション (SG-SAS6-INT-Z または SG-SAS6-EXT-Z) の LSI 外部ストレージドライバを読み込みます。
 - a. 「Driver Update Medium」ダイアログで、LSI フロッピーストレージイメージがマウントされているメディアを選択し、「OK」をクリックします。

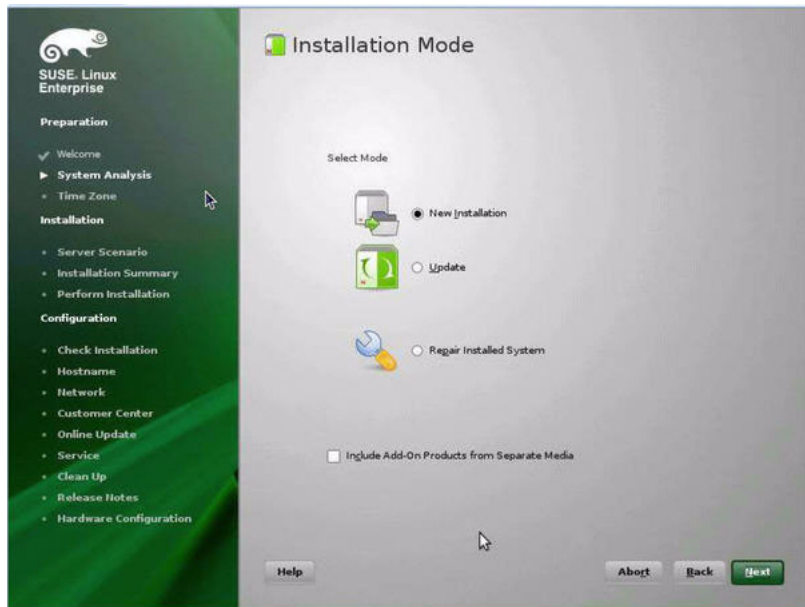
ドライバが読み込まれ、「Driver Update Medium」ダイアログが表示されます。
 - b. 「Driver Update Medium」ダイアログで「戻る (Back)」をクリックします。

インストールの読み込み中を示すメッセージが表示され、続いて SUSE の「ようこそ (Welcome)」画面が表示されます。

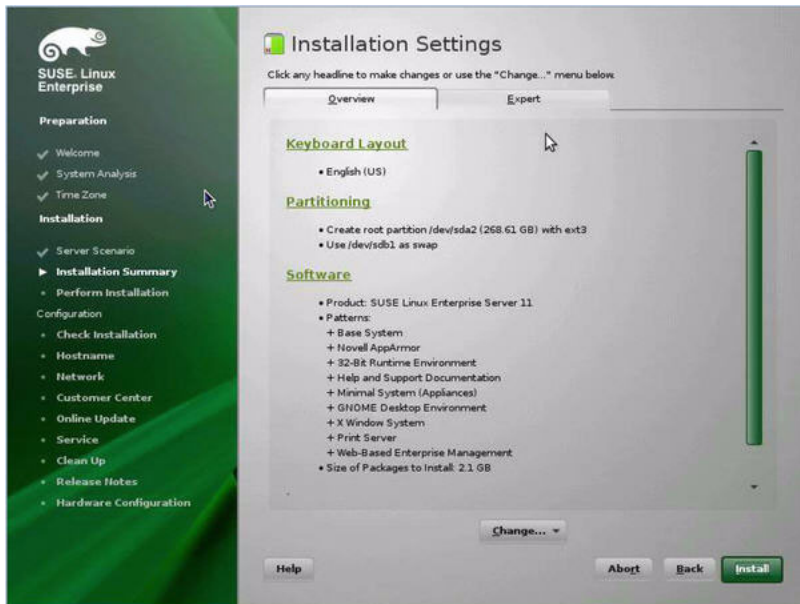


7. 「ようこそ (Welcome)」画面で、次の手順を実行します。

- 適切な言語を選択します。
- キーボードレイアウトを選択します。
- 使用許諾契約を読み、「I Agree to the License Terms」のチェックボックスをオンにします。
- 「Next (次へ)」をクリックします。
「システムプローブ (System Probing)」画面に進行状況バーが表示されます。システムの分析が完了したら、「Yast インストールモード (Yast Installation Mode)」画面が表示されます。



8. 「インストールモード (Installation Mode)」画面で「新規インストール (New Installation)」を選択して、「次へ (Next)」をクリックします。
「時刻とタイムゾーン (Clock and Time Zone)」画面が表示されます。
9. 「時刻とタイムゾーン (Clock and Time Zone)」画面で、適切な地域とタイムゾーンを選択して、「次へ (Next)」をクリックします。
「サーバーベースシナリオ (Server Base Scenario)」画面が表示されます。
10. 「サーバーベースシナリオ (Server Base Scenario)」画面で「物理マシン (Physical Machine)」を選択し、「次へ (Next)」をクリックします。
「インストール設定 (Installation Settings)」画面が表示されます。

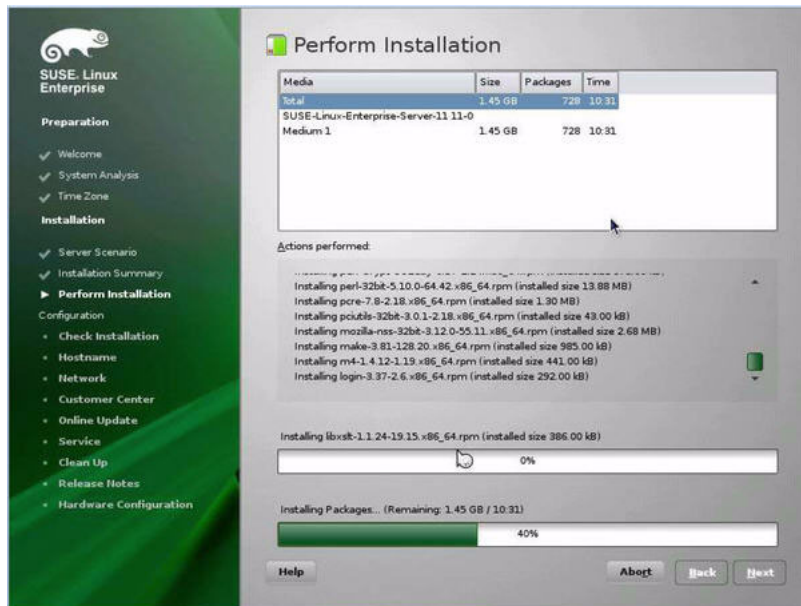


11. 「インストール設定 (Installation Settings)」画面で、次の手順を実行します。
- 「Next (次へ)」をクリックして、表示されているインストール設定を受け入れます。
 - または
 - 「変更 (Change)」をクリックして設定を編集し、「次へ (Next)」をクリックしてインストール設定を受け入れます。

注 - カスタムパーティションの作成方法、またはその他のインストール設定の編集方法については、Novell SLES 11 のドキュメントを参照してください。

- 「パッケージライセンスの確認 (Confirm Package License)」画面が表示されます。
12. 「パッケージライセンスの確認 (Confirm Package License)」画面で、次の手順を実行します。
- 使用許諾契約を読みます。
 - 「同意する (I Agree)」をクリックします。
 - 「インストール (Install)」をクリックします。
- 「インストールの確認 (Confirm Installation)」ダイアログが表示されます。

13. 「インストールの確認 (Confirm Installation)」ダイアログで、メッセージを読み、「インストール (Install)」をクリックしてインストールを開始します。
「インストールの実行 (Perform Installation)」ダイアログが表示されます。



14. SLES 11 OS のすべてのファイルがインストールされてシステムが再起動されるまで、インストールの基本設定を続行します。
15. 基本的なインストールの設定が完了したら、SLES 11 ドキュメントを参照して次の作業を実行します。
- 使用するアカウントのパスワードを作成します。
 - インターネットアクセスおよびネットワークの設定を行い、テストします。
 - OS を登録して、利用できる最新のアップデートをオペレーティングシステムにダウンロードします。
16. この章の後半で説明する、インストール後の作業を確認し、必要に応じて実行します。
詳細は、34 ページの「SLES のインストール後の作業」を参照してください。

PXE ネットワーク環境を使用した SLES 10 SP3 または SLES 11 のインストール

この節では、PXE ネットワーク環境から SLES 10 SP3 または 11 を起動する方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースからインストールメディアを起動することを前提にしています。

- SLES 10 SP3 または 11 以降のリリースの CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- SLES 10 SP3 または 11 以降のリリースの ISO DVD イメージまたは AutoYaST イメージ (ネットワークリポジトリ)

AutoYaST を利用すると、SLES オペレーティングシステムを複数のシステムにインストールできます。AutoYaST を使用した自動インストールの準備方法については、次の Web サイトにある Novell SUSE のマニュアルセットを参照してください。

(<http://www.novell.com/documentation/suse>)

インストールを開始する前に

PXE ネットワーク起動環境から SLES10 SP3 または 11 インストールを実行する前に、次の要件を満たす必要があります。

- AutoYaST を使用してインストールを行う場合は、次の操作が必要です。
 - AutoYast プロファイルを作成します。
SUSE Linux Enterprise (10 または 11) ドキュメントの AutoYaST インストール手順に従います。
- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアを起動するには、次の操作が必要です。
 - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを設定します。
 - TFTP サーバーで PXE 起動に必要なファイルを設定します。
 - PXE 設定から起動するように Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを設定します。
 - DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を設定します。

SUSE Linux Enterprise のドキュメントにある、ネットワーク経由での SUSE メディア起動のための設定手順に従います。

この手順の完了後、[34 ページの「SLES のインストール後の作業」](#)で説明する作業が必要となる場合があります。

▼ PXE ネットワーク起動を使用した SLES 10 SP3 または 11 のインストール

1. PXE ネットワーク環境が正しく設定され、SLES のインストールメディアを PXE 起動で使用できることを確認します。
2. サーバーの電源をリセットします。

例:

- ILOM Web インタフェースで、「リモート制御 (Remote Control)」--> 「リモート電源制御 (Remote Power Control)」タブを選択し、次に 「Select Action」 リストボックスから 「リセット (Reset)」を選択します。
- ローカルサーバーの前面パネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
- サーバー SP の ILOM CLI で、次のように入力します。 **reset /SYS**
BIOS 画面が表示されます。

注 – 次のイベントはすぐに発生するため、次の手順では注意する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. F8 キーを押して、一時起動デバイスを指定します。
「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示され、使用可能な起動デバイスが一覧表示されます。
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、使用しているネットワークインストールサーバーと通信できるように設定されている PXE インストール起動デバイス (物理ポート) を選択して、Enter キーを押します。
ネットワークブートローダーが読み込まれ、起動プロンプトが表示されます。タイムアウトしてインストールカーネルの読み込みが開始されるまで 5 秒待ちます。
最初の SUSE Linux 起動画面が表示されます。
5. インストールを続行するには、次のいずれかの節に進みます。
 - SLES 10 SP3 のインストールの場合は、23 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES10 SP3 のインストール」の手順 5 からインストールを続けます。
 - SLES 11 のインストールの場合は、26 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した SLES 11 のインストール」の手順 5 からインストールを続けます。

SLES のインストール後の作業

SLES 10 または 11 のインストールを完了したら、次に示すインストール後の作業を確認し、使用しているシステムで該当する作業を必要に応じて実行します。

- 34 ページの「SLES オペレーティングシステムの更新」
- 35 ページの「TPM のサポートの設定」

SLES オペレーティングシステムの更新

SLES OS のインストールメディアには、最新バージョンのオペレーティングシステムが含まれていない場合があります。次の手順では、サーバーの SLES OS を更新する方法について説明します。

▼ SLES オペレーティングシステムの更新

1. SLES サーバーにスーパーユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを入力して、YaST オンラインアップデートを実行します。

```
# you
```

YaST はテキストモードとグラフィカルモードの両方で動作します。ここでの指示は、両方に適用されます。

3. サーバーがネットワークファイアウォールで保護されていて、インターネットにアクセスするためにプロキシサーバーを使用する必要がある場合は、まず正しいプロキシ情報で YaST を設定します。
 - a. 「ネットワークサービス (Network Services)」タブを選択してから、右側の「プロキシ (Proxy)」画面を選択します。HTTP フィールドと HTTPS フィールドの両方に、正しいプロキシの URL を入力します。

注 – ネットワーク HTTP または HTTPS プロキシを介してオンラインアップデートサービスを正常に機能させるために、次の設定手順を実行します。

- b. YaST コーティリティーを終了して、次のコマンドを実行します。

```
rug set-prefs proxy-url proxy_URL
```

proxy_URL は、プロキシサーバーの完全修飾 URL です (たとえば、`http://proxy.yourdomain:3128/`)。

- c. コマンドの実行の成功後に、YaST を再度起動します。

4. Novell Customer Center に登録します。

注 – Novell Customer Center のユーザー名とパスワード、および SLES 製品のアクティベーションコードが必要です。

- a. 「ソフトウェア (Software)」タブを選択します。
 - b. 「Novell Customer Center の設定 (Novell Customer Center Configuration)」を選択し、指示に従います。
5. 登録後、「オンラインアップデート (Online Update)」タブを選択して、ソフトウェアのアップデートを実行します。

TPM のサポートの設定

SLES に用意されている Trusted Platform Module (TPM) 機能セットを使用する場合は、この機能をサポートするようにサーバーを設定する必要があります。手順については、各サーバーモデルのサービスマニュアルで TPM の設定サポート情報を参照してください。

- 『Sun Fire X4170 M2 Server Service Manual』 (821-0486)
- 『Sun Fire X4270 M2 Server Service Manual』 (821-0488)

注 – TPM を使用すると、サーバーの TPM セキュリティーハードウェアを管理できません。この機能の実装については、SUSE Linux Enterprise Server に用意されている TPM のドキュメントを参照してください。

第5章

Red Hat Enterprise Linux のインストール

この章では、x86 (64 ビット) 用の Red Hat Enterprise Linux 5 をサーバーにインストールする方法について説明します。

注 – サーバーに Red Hat Linux オペレーティングシステムをインストールする場合は、Oracle Hardware Installation Assistant (OHIA) を使用することを強くお勧めします。OHIA を使用すると、必要に応じて、デバイスドライバをインストールできます。OHIA を使用したオペレーティングシステムのインストールについては、[第 1 章](#)を参照してください。

この章では、次の項目について説明します。

- [38 ページ](#)の「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL5 のインストール」
- [42 ページ](#)の「PXE ネットワーク環境を使用した RHEL5 のインストール」
- [44 ページ](#)の「RHEL のインストール後の作業」

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL5 のインストール

次の手順では、RHEL 5.4 オペレーティングシステムのインストールをローカルまたはリモートのメディアから起動する方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから RHEL のインストールメディアを起動することを前提にしています。

- RHEL 5.4 以降のリリースの CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- RHEL 5.4 以降のリリースの ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – PXE 環境からインストールメディアを起動する場合は、[42 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した RHEL5 のインストール」](#) で手順を確認してください。

RHEL のインストール方法については、次の Web サイトで RHEL マニュアルセットを参照してください。(<http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/>)

インストールを開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を満たしている必要があります。

- オペレーティングシステムをインストールするための前提条件をすべて満たしている。これらの前提条件については、[第 2 章](#)を参照してください。
- インストールを開始する前に、使用するインストール方法 (コンソール、起動メディア、インストール先など) を決定して、設定が完了している。これらの設定に関する要件については、[付録 A](#) を参照してください。

この手順の完了後、この章で後述する、インストール後に必要な作業を確認して実行する必要があります。詳細は、[44 ページの「RHEL のインストール後の作業」](#) を参照してください。

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL5 のインストール

1. インストールメディアを起動できることを確認します。
 - ディストリビューション CD/DVD を使用する場合。ローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに、Red Hat 5.0 ディストリビューションメディアの起動ディスク (CD #1 または単一の DVD) を挿入します。
 - ISO イメージを使用する場合。ISO イメージが使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションで起動ディスクのイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「デバイス (Device)」メニュー --> 「CD-ROM Image」)。
 - インストールメディアを設定する方法については、[付録 A](#) を参照してください。
2. サーバーの電源をリセットします。

例:

 - **ILOM Web インタフェース**で、「リモート制御 (Remote Control)」--> 「リモート電源制御 (Remote Power Control)」タブを選択し、次に「Select Action」リストボックスから「リセット (Reset)」を選択します。
 - ローカルサーバーの前面パネルにある電源ボタンを押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
 - サーバー **SP** の **ILOM CLI** で、次のように入力します。**reset /SYS**
BIOS 画面が表示されます。

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、F8 キーを押して、RHEL のインストールで使用する一時起動デバイスを指定します。

「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示されます。
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、最初の起動デバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択し、Enter キーを押します。

「起動 (Boot)」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。

数秒後、RHEL5 インストールのスプラッシュ画面が表示されます。スプラッシュ画面の下半分に、説明、ファンクションキー、および起動プロンプトが表示されます。

5. Red Hat Enterprise Linux のスプラッシュ画面で、Enter キーを押して標準的な対話式インストールを続けます。

または、テキストモードで、次のコマンドを入力します。

```
boot: linux text
```

6. 「言語の選択 (Language)」画面で、適切な言語を選択して、「OK」をクリックします。
「キーボードタイプ (Keyboard Type)」画面が表示されます。
7. 「キーボードタイプ (Keyboard Type)」画面で、適切なキーボード設定を選択してから、「OK」をクリックします。
「インストール方法 (Installation Method)」画面が表示されます。
8. 「インストール方法 (Installation Method)」画面で、適切なインストール方法 (「Local CDROM」または「NFS Image」) を選択し、「OK」をクリックします。
「CD が見つかりました (CD Found)」画面が表示されます。
9. 「CD が見つかりました (CD Found)」画面で、「スキップ (Skip)」をクリックします。
「Red Hat Enterprise Linux 5」画面が表示されます。
10. 「Red Hat Enterprise 5」画面で、「Next (次へ)」をクリックします。
「インストール番号 (Installation Number)」ダイアログが表示されます。
11. 「インストール番号 (Installation Number)」ダイアログで、インストール番号を入力するか「Skip entering installation number」をクリックし、「OK」をクリックします。
「ディスクパーティション設定 (Disk Partition Setup)」画面が表示されます。
12. 「ディスクパーティション設定 (Disk Partition Setup)」画面で、次の手順に従います。
 - a. 「Remote Linux partition on selected drives and create default layout」のオプションを選択するか、Disk Druid の「Create custom layout」オプションを使用して手動でディスクをパーティションに分割し、「Next (次へ)」をクリックします。



Installation requires partitioning of your hard drive. By default, a partitioning layout is chosen which is reasonable for most users. You can either choose to use this or create your own.

Remove linux partitions on selected drives and create default layout.

Select the drive(s) to use for this installation.

hda 5114 MB VMware Virtual IDE Hard Drive

+ Advanced storage configuration

Review and modify partitioning layout

Release Notes

Back

Next

- b. Red Hat のディスクパーティション設定の画面に表示される手順を参照して、必要に応じてディスクをパーティションに分割します。

注 – Oracle Solaris OS がディスクにインストール済みの場合は、ディスクをパーティションに分割して Oracle Solaris を削除するか、Solaris を削除せずにディスクをパーティションに分割し、デュアルブートオペレーティングシステムをサポートすることもできます。

13. 画面上の指示と Red Hat のドキュメントに従って、Red Hat インストールの基本設定を続行します。
14. Red Hat インストールの基本設定が完了したら、次に示すインストール後の作業を実行します。
 - a. システムで自動更新を設定します。

詳細は、Red Hat のマニュアルを参照してください。
 - b. 必要な場合は、RHEL5.4 用の最新の訂正とバグ修正をダウンロードしてインストールします。

詳細は、Red Hat のマニュアルを参照してください。
 - c. この章の後半で説明する、インストール後の作業を確認し、必要に応じて実行します。

[44 ページの「RHEL のインストール後の作業」](#)を参照してください。

PXE ネットワーク環境を使用した RHEL5 のインストール

この節では、PXE ネットワーク環境から RHEL5 を起動する方法について説明します。ここでは、次のいずれかのソースからインストールメディアを起動することを前提にしています。

- RHEL5.4 以降のリリースの CD または DVD セット (内蔵または外付けの CD/DVD)
- RHEL5.4 以降のリリースの ISO DVD イメージまたは KickStart イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – KickStart は、Red Hat の自動インストール方法です。これを使用すると、通常は一般的な Red Hat のインストール中に入力される、インストールと設定のパラメータの一部またはすべての設定値を含めた、単一のイメージを作成できます。通常、KickStart イメージは 1 つのネットワークサーバー上に配置され、インストール時に複数のシステムによって読み取られます。

インストールを開始する前に

RHEL PXE インストールを実行する前に、次の要件を満たす必要があります。

- KickStart イメージを使用してインストールを行う場合、次の操作が必要です。
 - KickStart ファイルを作成します。
 - KickStart ファイルを含む起動メディアを作成するか、またはネットワーク上で KickStart ファイルを使用できるようにします。

『Red Hat Enterprise Linux 4: Administration Guide』

(<http://www.redhat.com/docs>) の KickStart インストール手順に従ってください。

- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアを起動するには、次の操作が必要です。
 - ネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを、インストールツリーをエクスポートできるように設定します。
 - TFTP サーバーで PXE 起動に必要なファイルを設定します。
 - PXE 設定から起動するように Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを設定します。
 - DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を設定します。

『Red Hat Enterprise Linux 4: Administration Guide』

(<http://www.redhat.com/docs>) の PXE ネットワークのインストール手順に従ってください。

▼ ネットワーク PXE 起動を使用した RHEL5 のインストール

1. PXE ネットワーク環境が正しく設定され、RHEL のインストールメディアを PXE 起動で使用できることを確認します。
2. サーバーの電源をリセットします。

例:

- ILOM Web インタフェースで、「リモート制御 (Remote Control)」--> 「リモート電源制御 (Remote Power Control)」タブを選択し、次に 「Select Action」 リストボックスから 「リセット (Reset)」を選択します。
- ローカルサーバーの前面パネルにある電源ボタンを押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
- サーバー SP の ILOM CLI で、次のように入力します。 **reset /SYS**
BIOS 画面が表示されます。

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. F8 キーを押して、一時起動デバイスを指定します。
「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示され、使用可能な起動デバイスが一覧表示されます。
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、使用している PXE ネットワーク インストールサーバーと通信できるように設定されているネットワークポートを選択します。
ネットワークブートローダーが読み込まれ、起動プロンプトが表示されます。数秒後、インストールカーネルの読み込みが開始されます。
5. インストールを完了するには、39 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した RHEL5 のインストール」の手順 5 を参照してください。

RHEL のインストール後の作業

RHEL のインストールを完了したら、次に示すインストール後の作業を確認し、使用しているシステムで該当する作業を必要に応じて実行するようにしてください。

- 44 ページの「RHEL の登録と自動更新の有効化」
- 44 ページの「TPM サポートの設定」

RHEL の登録と自動更新の有効化

RHEL のインストール後、RHEL サブスクリプションを有効にして、ソフトウェアの自動更新を受信するようにしてください。詳細は、Red Hat Linux のサポート (<http://www.redhat.com/apps/support/>)

TPM サポートの設定

SLES に用意されている Trusted Platform Module (TPM) 機能セットを使用する場合は、この機能をサポートするようにサーバーを設定する必要があります。手順については、各サーバーモデルのサービスマニュアルで TPM の設定サポート情報を参照してください。

- 『Sun Fire X4170 M2 Server Service Manual』 (821-0486)
- 『Sun Fire X4270 M2 Server Service Manual』 (821-0488)

注 - TPM を使用すると、サーバーの TPM セキュリティーハードウェアを管理できません。この機能の実装については、SUSE Linux Enterprise Server に用意されている TPM のドキュメントを参照してください。

部 II 仮想マシンソフトウェアのインストール

サーバーに仮想マシンソフトウェアをインストールする方法を、この節に示すトピックで説明します。

説明	リンク
要件。 インストールに関する注意事項と要件について確認するには、第 1 章を参照してください。	<ul style="list-style-type: none">• 第 6 章概要
手順。 適切な章を参照して、Oracle VM、VMware ESX、または VMware ESXi をインストールします。	<ul style="list-style-type: none">• 第 7 章 Oracle VM のインストール• 第 8 章 VMware ESX または ESXi のインストール
参照情報。 これらのトピックを必要に応じて参照し、仮想マシンソフトウェアのインストールを実行または完了します。	<ul style="list-style-type: none">• 付録 A サポートされるインストール方法• 付録 B サポートされているオペレーティングシステム• 付録 C 新規インストール時の BIOS のデフォルト設定

第6章

仮想マシンソフトウェアのインストールの概要

この章では、サポートされる仮想マシンソフトウェアをサーバーにインストールする方法の概要について説明します。

本章で説明するトピックは次のとおりです。

- [47 ページの「サポートされる仮想マシンソフトウェア」](#)
- [48 ページの「VM ソフトウェアのインストールに関する注意事項」](#)
- [49 ページの「VM ソフトウェアのインストール作業の概要」](#)

サポートされる仮想マシンソフトウェア

Sun Fire X4470 サーバーは、次の仮想マシン (Virtual Machine、VM) ソフトウェアをサポートします。

VM ソフトウェア	サポートされる最小版
Oracle VM	Release 2.2.1
VMware ESX	Release 4.0 Update 1
VMware ESXi	Release 4.0 Update 1

Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの完全な最新リストについては、次の Web サイトを参照してください。

- (<http://www.sun.com/servers/x64/x4170/os.jsp>)
- (<http://www.sun.com/servers/x64/x4270/os.jsp>)

VM ソフトウェアのインストールに関する注意事項

サーバーへの VM ソフトウェアのインストールを開始する前に、次の重要な注意事項について確認してください。

表 6-1 VM ソフトウェアのインストールに関する注意事項

注意事項	説明	詳細は、次を参照してください。
仮想マシンソフトウェアのインストールプログラムを起動できるように配備方法が設定されている。	VM ソフトウェアのインストールを配備するためのガイドライン。	<ul style="list-style-type: none">付録 A
Oracle VM インストールのハードウェア要件	Oracle VM では、静的 IP アドレスを設定した 2 つのシステムが必要です。 <ul style="list-style-type: none">一方のシステムには、Oracle Virtual Machine Server をインストールします。もう一方のシステムでは、次のいずれかの Linux オペレーティングシステムがインストールされた Oracle Virtual Machine Manager を実行します。<ul style="list-style-type: none">- Oracle Enterprise Linux Release 4.5 以降- Red Hat Enterprise Linux Release 4 以降	<ul style="list-style-type: none">『Oracle VM Server Release Notes』および『Oracle VM Manager Release Notes』 (http://download.oracle.com/docs/cd/E15458_01/index.htm)
RAID ボリュームの要件	起動ドライブを RAID 構成の一部にする場合は、ドライブで RAID ボリュームを設定する必要があります。VMware をインストールする前に、LSI 統合 RAID コントローラのセットアップユーティリティを使用します。	<ul style="list-style-type: none">『LSI MegaRAID Software SAS User's Guide』 (http://www.lsi.com/support/sun/)
OS の新規インストール時の BIOS 設定の検証	VM ソフトウェアをインストールする前に、BIOS が出荷時のデフォルトプロパティに設定されていることを確認するようにしてください。	<ul style="list-style-type: none">付録 C

表 6-1 VM ソフトウェアのインストールに関する注意事項 (続き)

注意事項	説明	詳細は、次を参照してください。
OS のインストールに関する最新情報とアップデートの入手	『Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー製品ノート』および VM ソフトウェアのリリースノートを参照して、サポートされるソフトウェアとアップデートに関する最新情報を入手します。	<ul style="list-style-type: none"> • 『Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー 製品ノート』 (821-1629) • Oracle VM 2.2.1 リリースノート (http://download.oracle.com/docs/cd/E15458_01/index.htm) • VMware ESX 4.0 Update 1 リリースノート (http://www.vmware.com/support/vsphere4/doc/vsp_esx40_u1_rel_notes.html) • VMware ESXi Update 1 リリースノート (http://www.vmware.com/support/vsphere4/doc/vsp_esxi40_u1_rel_notes.html)

VM ソフトウェアのインストール作業の概要

仮想マシンソフトウェアをインストールするには、次に示す手順をすべて順番に実行します。

1. VM ソフトウェアをインストールするためのメディアを入手します。
 - Oracle VM インストールプログラムの ISO イメージは、次の Web サイトからダウンロードできます。 (<http://www.oracle.com/virtualization>)
 - ESX または ESXi インストールプログラムの ISO イメージは、次の場所からダウンロードできます。 (<http://www.vmware.com/download>)

注 – VM ソフトウェアの ISO イメージを使用して、リモートインストールを実行するか、インストール CD または DVD を作成できます。

2. [付録 A](#) を参考にして、VM ソフトウェアのインストールを配備するためのインストール方法を選択し設定します。

3. 次の節で説明する手順に従って、VM ソフトウェアをインストールします。
 - 51 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM のインストール」
 - 55 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した VMware ESX または ESXi のインストール」
4. 次の節の説明に従って、適切なインストール後の作業を確認および実行します。
 - 54 ページの「Oracle VM のインストール後の作業」
 - 61 ページの「VMware ESX および ESXi のインストール後の作業」

第7章

Oracle VM のインストール

この章では、Oracle VM のインストールに必要な手順の概要を示します。

本章で説明するトピックは次のとおりです。

- [51 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM のインストール」](#)
 - [54 ページの「Oracle VM のインストール後の作業」](#)
-

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle VM のインストール

この節の手順では、Oracle VM ソフトウェアをインストールする手順の概要を示します。この手順では、次のいずれかのソースから VM のインストールメディアを起動することを前提にしています。

- Oracle VM 2.2.1 CD または DVD メディアセット (内蔵または外付けの CD または DVD)
 - Oracle VM 2.2.1 ISO ソフトウェアイメージ (ネットワークリポジトリ)
-

注 – Oracle VM の ISO イメージを使用して、リモートインストールを実行するか、インストール CD または DVD を作成できます。

Oracle VM ソフトウェアをインストールするには、次の手順を参照してください。

- [52 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアからの Oracle VM Server のインストール」](#)
- [53 ページの「Oracle VM Manager のインストール」](#)

インストールを開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を満たしている必要があります。

- Oracle VM Server および Manager のインストールに適用される注意事項をすべて満たしている。詳細は、[第 6 章](#)を参照してください。
- Oracle VM のドキュメントを入手している。このドキュメントを、このガイドで説明するインストール手順と一緒に使用することをお勧めします。

Oracle VM ドキュメントは、次の Web サイトからダウンロードできます。
(http://download.oracle.com/docs/cd/E15458_01/index.htm)

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアからの Oracle VM Server のインストール

1. Oracle VM Server のインストールメディアを起動できることを確認します。
 - **CD/DVD ディストリビューションメディアを使用する場合。** ローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに、Oracle VM Server メディアの起動ディスクを挿入します。
 - **ISO イメージを使用する場合。** ISO イメージが使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションで起動ディスクのイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「デバイス (Devices)」 --> 「CD-ROM Image」)。

インストールメディアの設定方法については、[付録 A](#)を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。

例:

- **ILOM Web インタフェースで、**「リモート制御 (Remote Control)」 --> 「リモート電源制御 (Remote Power Control)」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「リセット (Reset)」を選択します。
- **ローカルサーバーの**前面パネルにある電源ボタンを押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。

注 – 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、F8 キーを押して、Oracle VM Server のインストールで使用する一時起動デバイスを指定します。
「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示されます。

4. 「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューで、最初の起動デバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択し、Enter キーを押します。

「起動デバイス (Boot Device)」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。

数秒後、Oracle VM Manager インストールプログラムのスプラッシュ画面が表示されます。

5. 指示に従って、Oracle VM Server および Oracle VM Agent をインストールします。
ここで、Oracle VM インストールプログラムは Oracle VM Server と Oracle VM Agent をインストールします。
6. インストール中に設定したパスワードを使用して、Oracle VM Server に root ユーザーとしてログインします。

注 - Oracle VM のインストールには 2 つのパスワードが必要です。1 つは VM Server のアカウント用、もう 1 つは VM エージェント用のパスワードです。必要な場合は、Oracle VM Server のインストールを完了する方法について、『Oracle VM Server Installation Guide』を参照してください。

7. 次のいずれかの操作を実行します。
 - Oracle VM Server を管理するための Oracle VM Manager が設定されていない場合は、Oracle VM Manager をインストールする必要があります。
Oracle VM Manager をインストールするには、53 ページの「[Oracle VM Manager のインストール](#)」を参照してください。
 - Oracle VM Server を管理するための Oracle VM Manager が設定されている場合は、54 ページの「[Oracle VM のインストール後の作業](#)」に進みます。

▼ Oracle VM Manager のインストール

1. Oracle VM Manager をインストールするシステムで、サポートされている Linux オペレーティングシステムを起動します。
2. Oracle VM Manager のインストールメディアがマウントされていることを確認します。
3. 次のスクリプトを root ユーザーとして実行します。

```
# sh runInstaller.sh
```

4. 指示に従って Oracle VM Manager をインストールします。

Oracle VM Agent のパスワードを使用して、管理インタフェースにログインする必要があります。

必要な場合は、Oracle VM Manager のインストールを完了する方法について、『Oracle VM Server Installation Guide』を参照してください。
5. Oracle VM Manager のインストール完了後に、次の手順を実行します。
 - a. Web ベースの Oracle VM 管理インタフェースに管理者としてログインします。

Oracle VM Manager のインストール中に作成したパスワードを入力する必要があります。
 - b. Web 管理インタフェースのオプションを使用して、サーバープールの作成および管理と、仮想マシンの作成、設定、および管理を行います。
6. 54 ページの「Oracle VM のインストール後の作業」の説明に従って、適切なインストール後の作業を確認および実行します。

Oracle VM のインストール後の作業

Oracle VM ソフトウェアのインストールを完了したら、次に示すインストール後の作業を確認し、使用しているシステムで該当する作業を必要に応じて実行します。

- 54 ページの「Oracle VM ソフトウェアの更新」
- 54 ページの「Oracle VM リソースの管理」

Oracle VM ソフトウェアの更新

Oracle VM のインストールメディアには、最新バージョンのソフトウェアが含まれていない場合があります。必要な場合は、最新のアップデートを利用して Oracle VM ソフトウェアを更新します。ダウンロード手順については、次の Web サイトを参照してください。

(<http://www.oracle.com/virtualization>)

Oracle VM リソースの管理

Oracle VM リソースの設定、アクセス、および管理を行う方法については、次の Web サイトで Oracle VM のドキュメントライブラリを参照してください。

(http://download.oracle.com/docs/cd/E15458_01/index.htm)

第8章

VMware ESX または ESXi のインストール

この章では、次に示す VMware のインストールに必要な手順の概要を示します。

- VMware ESX 4.0 Update 1 (および以降のリリース)
- VMware ESXi 4.0. Update 1 (および以降のリリース)

この章では、次の項目について説明します。

- 55 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した VMware ESX または ESXi のインストール」
- 61 ページの「VMware ESX および ESXi のインストール後の作業」

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した VMware ESX または ESXi のインストール

この節の手順では、VMware (ESX または ESXi) ソフトウェアをローカルまたはリモートのメディアからインストールする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから VMware のインストールメディアを起動することを前提にしています。

- VMware ESX または ESXi 4.0 Update 1 の CD または DVD (内蔵または外付けの CD/DVD)
- VMware ESX または ESXi 4.0 Update 1 の ISO イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – VMware の ISO イメージを使用して、リモートインストールを実行するか、インストール CD または DVD を作成できます。

ローカルメディアまたはリモートメディアから VMware ソフトウェアをインストールするには、次の手順を参照してください。

- 56 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアからの VMware ESXi 4.0 のインストール」
- 58 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアからの VMware ESX 4.0 のインストール」

インストールを開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を満たしている必要があります。

- 仮想マシンソフトウェアのインストールに適用される注意事項をすべて満たしている。詳細は、48 ページの「VM ソフトウェアのインストールに関する注意事項」を参照してください。
- VMware ESX または ESXi のドキュメントを入手している。このドキュメントを、このガイドで説明するインストール手順と一緒に使用することをお勧めします。

VMware ESX および ESXi のドキュメントは次の Web サイトで入手できます。

(http://www.vmware.com/support/pubs/vs_pubs.html)

- VMware ESX のインストールの場合、VM サービスコンソールに使用するネットワーク管理インタフェースを決定している。

VM サービスコンソールおよび管理インタフェースでは、ネットワークインタフェースが必要です。サービスコンソールは、最初に見つかった接続中のインタフェースを自動的に使用しません。このため、ネットワークインタフェースのデフォルトは vmic0 に設定されており、インストール中にサービスコンソール用のネットワークインタフェースを選択する必要があります。

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアからの VMware ESXi 4.0 のインストール

1. インストールメディアを起動できることを確認します。

- **CD/DVD ディストリビューションメディアを使用する場合。** ローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに、VMware ESXi 4.0 Update 1 ディストリビューションメディアの起動ディスク (CD #1 または単一の DVD) を挿入します。
- **ISO イメージを使用する場合。** ISO イメージが使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションで起動ディスクのイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「デバイス (Devices)」 --> 「CD-ROM Image」)。

インストールメディアの設定方法については、[付録 A](#) を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。

例:

- **ILOM Web インタフェース**で、「リモート制御 (Remote Control)」--> 「リモート電源制御 (Remote Power Control)」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「リセット (Reset)」を選択します。
- **ローカルサーバーの前面パネルの電源ボタン**を押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。

注 – 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、F8 キーを押して、VMware のインストールで使用する一時起動デバイスを指定します。

「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示されます。

4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、最初の起動デバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択して、Enter キーを押します。

「起動デバイス (Boot Device)」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。数秒後、VMware インストールプログラムのスプラッシュ画面が表示されます。

5. インストールを完了するには、ESXi 4.0 Update 1 のインストールドキュメントを参照してください。

VMware ESXi 4.0 のインストールドキュメントは、次の Web サイトで入手できます。http://www.vmware.com/support/pubs/vs_pubs.html

6. VMware ESXi 4.0 Update 1 のインストール後、61 ページの「VMware ESX および ESXi のインストール後の作業」に進みます。

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアからの VMware ESX 4.0 のインストール

1. インストールメディアを起動できることを確認します。
 - **CD/DVD ディストリビューションメディアを使用する場合。** ローカルまたはリモートの USB CD/DVD-ROM ドライブに、VMware ESX 4.0 Update 1 ディストリビューションメディアの起動ディスク (CD #1 または単一の DVD) を挿入します。
 - **ISO イメージを使用する場合。** ISO イメージが使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションで起動ディスクのイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「デバイス (Devices)」 --> 「CD-ROM Image」)。

インストールメディアの設定方法については、[付録 A](#) を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。

例:

- **ILOM Web インタフェースで、**「リモート制御 (Remote Control)」 --> 「リモート電源制御 (Remote Power Control)」を選択し、次に「ホストアクション (Host Action)」リストボックスから「リセット (Reset)」オプションを選択します。
- **ローカルサーバーの前面パネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。**

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、F8 キーを押して、VMware のインストールで使用する一時起動デバイスを指定します。

「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示されます。
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、最初の起動デバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択して、Enter キーを押します。

「起動デバイス (Boot Device)」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。数秒後、VMware インストールプログラムのスプラッシュ画面が表示されます。
5. VMware インストールプログラムを続行し、必要な場合は VMware ESX 4.0 のインストールドキュメントを参照してください。
6. 「ネットワーク設定 (Network Configuration)」ダイアログが表示されたら、次の手順を実行します。

ESX 4.0

Network Configuration

Select an adapter for ESX

Select an adapter for ESX to use for system tasks.

Network Adapter: 82576 Gigabit Network... (MAC: 00:21:28:3d:ec:04) -Connected

This adapter requires a VLAN ID (Leave unchecked if you are not sure)

VLAN Settings: VLAN ID

- a. 「ネットワークアダプタ (Network Adapter)」フィールドで、ドロップダウン矢印をクリックして使用するネットワークアダプタを選択し、「次へ (Next)」をクリックします。

このダイアログで、VMware サービスコンソール (vmnic0) に対して有効なネットワークアダプタ (つまり、ネットワークに接続されたアダプタ) を指定する必要があります。上のダイアログの図に示すように、有効な各ネットワークアダプタの横には緑色のチェックマークが表示されます。また、ネットワークポート (たとえば、NET0、NET1、NET2、または NET3) に関連付けられた MAC アドレスも表示されます。MAC アドレスを使用して、存在している物理ネットワークポートを確認できます。

また、ILOM コマンド行インタフェース (Command-Line Interface、CLI) を使用して、サーバーの物理ネットワークポートに関連付けられている MAC アドレスを確認することもできます。たとえば、ネットワークポート NET0 に関連付けられている MAC アドレスを確認するには、ILOM CLI で次のコマンドを入力します。

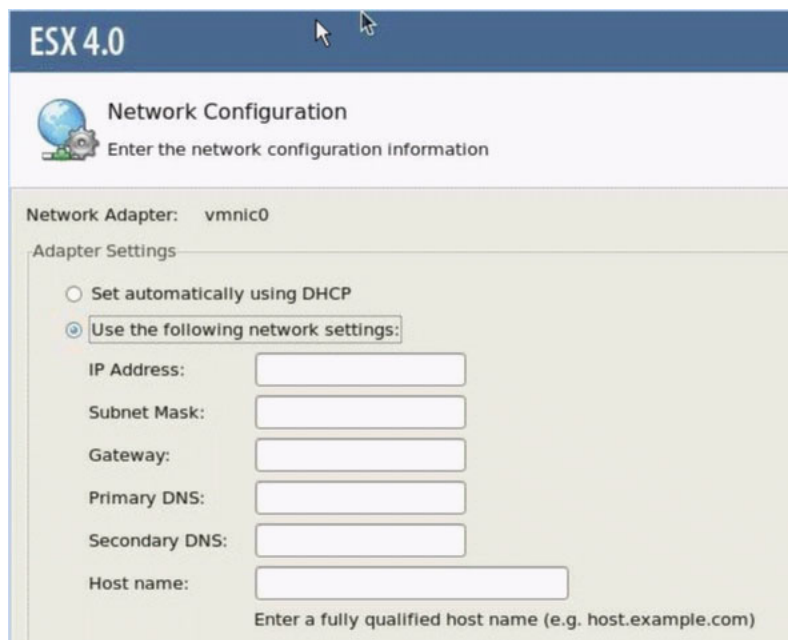
-> **show /SYS/MB/NET0**

次の出力例では、NET0 の MAC アドレスは 00:14:4F:CA:B8:36 です。

```
->show /SYS/MB/NET0
/SYS/MB/NET0
Targets:
Properties:      type = Network Interface
ipmi_name = MB/NET0
fru_name = GIGABIT ETHERNET CONTROLLERS
fru_manufacturer = INTEL
fru_part_number = 82575EB
fru_serial_number = 00:14:4F:CA:B8:36
fault_state = OK
clear_fault_action = (none)
```

注 – 選択するネットワークアダプタが不明の場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ESX 4.0 の「ネットワーク設定 (Network Configuration)」ダイアログが表示され、ここでネットワークアダプタ設定を指定します。



- b. 「ネットワーク設定 (Network Configuration)」ダイアログで、次のいずれかを実行します。
 - ネットワークアダプタを自動設定する場合は、「Set automatically using DHCP」を選択し、「次へ (Next)」をクリックします。
または
 - ネットワークアダプタを手動で設定する場合は、「Use the following network settings」を選択し、適切なフィールドにネットワーク設定を指定して、「次へ (Next)」をクリックします。
7. VMware ESX 4.0 Server のインストールを完了し、必要な場合は VMware ESX 4.0 Server のインストールドキュメントを参照してください。
8. インストールの完了後、61 ページの「VMware ESX および ESXi のインストール後の作業」に進みます。

VMware ESX および ESXi のインストール後の作業

ESX または ESXi のインストールを完了したら、次に示すインストール後の作業を確認し、使用しているシステムで該当する作業を必要に応じて実行します。

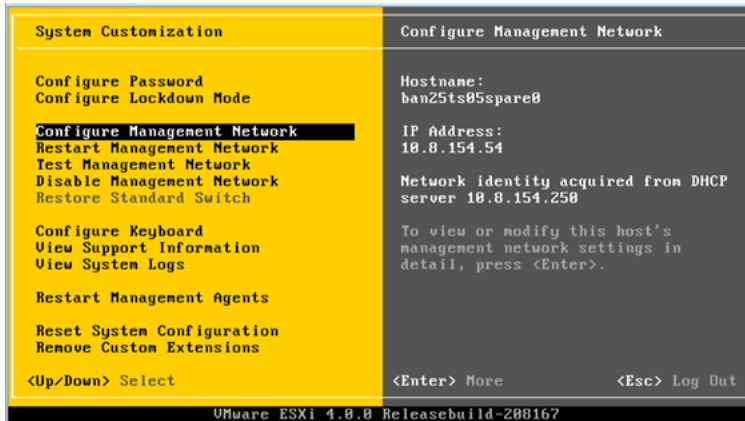
- 61 ページの「VMware ESXi インストールでのネットワークアダプタの設定」
- 64 ページの「VMware ESXi のインストール後に認識されないローカルストレージドライブ」
- 65 ページの「ESX または ESXi オペレーティングシステムの更新」
- 65 ページの「VMware リソースの管理」

VMware ESXi インストールでのネットワークアダプタの設定

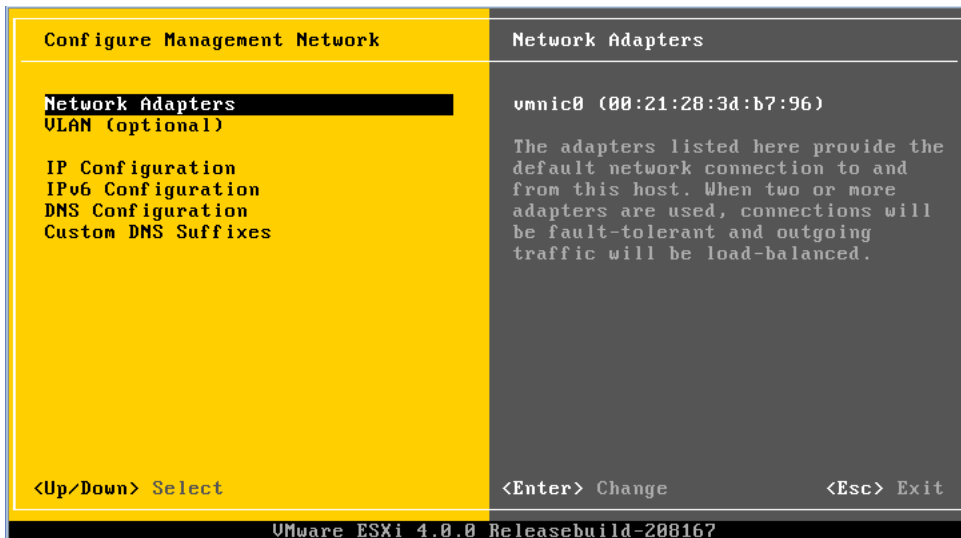
次の手順では、サーバーに取り付けられているネットワークアダプタを利用できるように VMware ESXi を設定する方法について説明します。これらの手順には、サーバーに取り付けられた各ネットワークアダプタの物理ポートの場所を検出する手順も含まれます。

▼ ネットワークアダプタ設定の構成

1. VMware ESXi Server にログインします。
2. 「System Customization」ダイアログにアクセスし、「Configure Management Network」を選択します。

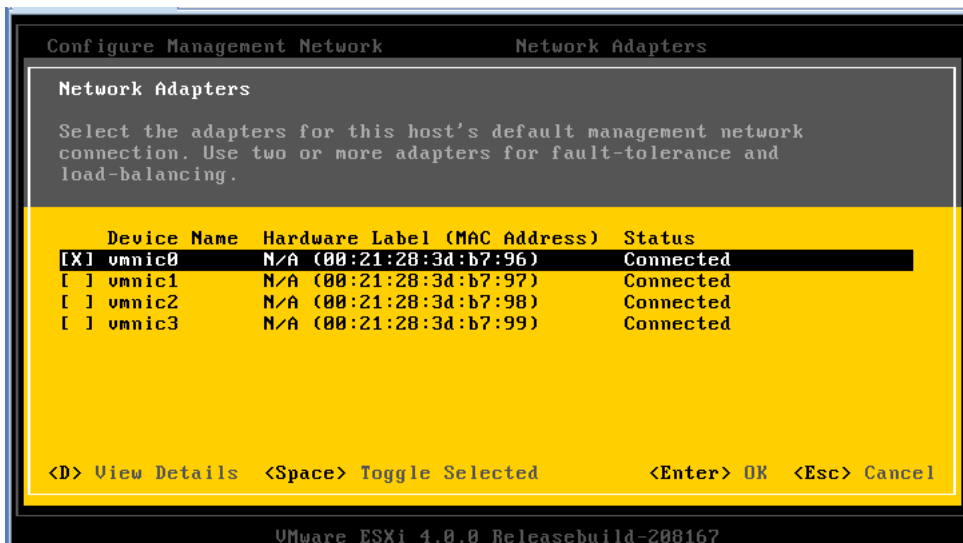


「Configure Management Network」ダイアログが表示されます。



3. 「Configuration Management Network」ダイアログで、「ネットワークアダプタ (Network Adapters)」を選択します。

「ネットワークアダプタ (Network Adapters)」ダイアログが表示されます。



4. 「ネットワークアダプタ (Network Adapters)」ダイアログで、VMware サービスコンソール (vmnic0) に対して有効なネットワークアダプタ (ネットワークに接続されたアダプタ) を選択し、Enter キーを押します。

VMware サービスコンソール (vmnic0) に対して有効なネットワークアダプタ (ネットワークに接続されたアダプタ) を指定する必要があります。サーバーの物理ネットワークポート (たとえば、NET0、NET1、NET2、または NET3) に関連付けられている MAC アドレスが、「Hardware Label」列に表示されます。したがって、MAC アドレスを使用して、表示されているサーバーの物理ネットワークポートを確認できます。たとえば、サーバーの各ネットワークポートに関連付けられている MAC アドレスを確認するには、Sun ILOM コマンド行インタフェース (CLI) で各ポートに対して次のコマンドを入力します。

-> **show /SYS/MB/NET*n***

n には 0、1、2、または 3 を指定します。

上のダイアログの画面に示すネットワークアダプタがネットワークポート NET0 に関連付けられている場合は、CLI コマンドの **show /SYS/MB/NET0** で、次の出力が生成されます。fru_serial_number フィールドに MAC アドレスが表示されます。

```
-> show /SYS/MB/NET0
/SYS/MB/NET0
Targets:
Properties:
type = Network Interface ipmi_name = MB/NET0
fru_name = GIGABIT ETHERNET CONTROLLERS
fru_manufacturer = INTEL
fru_part_number = 82576EB
```

```
fru_serial_number = 00:21:28:3D:B7:96
fru_extra_2 = 00:21:28:3D:B7:96
fault_state = OK
clear_fault_action = (none)
```

注 – 選択するネットワークアダプタが不明の場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

VMware ESXi のインストール後に認識されないローカルストレージドライブ

サーバーのローカルストレージドライブが Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe Host Bus Adapter (SG-SAS6-INT-Z または SG-SAS6-EXT-Z) に接続されている場合は、VMware ESXi のインストールを実行したあと、ローカルストレージドライブの VMFS データストアが認識されません。この場合は、次の手順を実行して、ローカルストレージドライブ上の既存の VMFS データストアを認識および使用できるようにしてください。

▼ VSphere Client での VMFS データストアの認識

1. VSphere Client を使用して VMware ESX サーバーに接続します。
2. VSphere Client インタフェースで、選択したデータセンターに ESXi ホストを追加します。
3. 手順 2 でデータセンターに追加した ESXi ホストを選択し、「設定 (Configuration)」タブをクリックします。
4. 「設定 (Configuration)」タブで、次の手順を実行します。
 - a. 「ハードウェア (Hardware)」ボックスで、「Storage」を選択し、「ストレージの追加 (Add Storage)」のリンクをクリックします。
 - b. Disk/LUN Storage Type が選択されていることを確認し、「次へ (Next)」をクリックします。
 - c. ローカルディスクに対応する vmhba のエントリを選択し、「次へ (Next)」をクリックします。
 - d. 「Use Free Space」を選択し、「次へ (Next)」をクリックします。
 - e. データストア名 (たとえば、local_storage) を作成し、「次へ (Next)」をクリックします。

- f. 必要に応じて最大ファイルサイズを調整し、「次へ (Next)」をクリックします。
- g. 提示されたディスクレイアウトが使用可能であることを確認し、「完了 (Finish)」をクリックします。
ローカル VMFS データストアが認識され、利用可能になります。

ESX または ESXi オペレーティングシステムの更新

VMware ESX または ESXi のインストールメディアには、最新バージョンのソフトウェアが含まれていない場合があります。

必要に応じて、最新のアップデートおよびパッチを使用して ESX または ESXi サーバーソフトウェアを更新します。ダウンロード手順については、次の Web サイトを参照してください。

[\(http://support.vmware.com/selfsupport/download/\)](http://support.vmware.com/selfsupport/download/)

ESX ではパッチ ESX400-201002001 を、ESXi ではパッチ ESXi400-201002001 をインストールすることをお勧めします。

VMware リソースの管理

VMware リソースの設定と管理については、次の Web サイトで VMware のドキュメントを参照してください。

http://www.vmware.com/support/pubs/vs_pages/vsp_pubs_esxi40_i_vc40.html

部 III Oracle Solaris のインストール

サーバーに Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールする方法を、この節に示すトピックで説明します。

説明	リンク
初心者または経験を積んだユーザー。 Oracle Solaris のインストールを実行する前に、インストールに関する注意事項を確認してください。	第 9 章 Oracle Solaris のインストールの概要
経験を積んだユーザー: Oracle Solaris 10 オペレーティングシステムのインストールと、インストール後の作業を実行します。	第 10 章 Oracle Solaris 10 のインストール
参照情報。 これらのトピックを必要に応じて参照し、Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールを実行または完了します。	<ul style="list-style-type: none">• 付録 A インストール方法• 付録 B サポートされているオペレーティングシステム• 付録 C 新規インストール時の BIOS のデフォルト設定• 付録 D Tools and Drivers DVD の ISO イメージのダウンロード

第9章

Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールの概要

この章では、Oracle Solaris オペレーティングシステムを Oracle の Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーにインストールする方法の概要について説明します。

本章で説明するトピックは次のとおりです。

- 69 ページの「サポートされる Oracle Solaris オペレーティングシステム」
- 70 ページの「インストール時の注意事項」
- 71 ページの「インストール作業の概要」

サポートされる Oracle Solaris オペレーティングシステム

Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーは、次の Solaris オペレーティングシステムをサポートします。

- Oracle Solaris 10 10/09

Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの完全な最新リストについては、次の Web サイトを参照してください。

- (<http://www.sun.com/servers/x64/x4170/os.jsp>)
- (<http://www.sun.com/servers/x64/x4270/os.jsp>)

Solaris マニュアルセット

このガイドのインストール手順では、Solaris のインストールを開始する手順の概要を説明しています。サーバーに Solaris オペレーティングシステムをインストールする方法の詳細は、次のマニュアルセットを参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1236.11?l=en>

インストール時の注意事項

x64 サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次の重要な注意事項について確認してください。

注意事項	説明	詳細は、次を参照してください。
オペレーティングシステムを手動でインストールするためのローカルまたはリモートによる配備方法の選択	オペレーティングシステムは、サポートされる配備方法のいずれを使用してもインストールできます。 <ul style="list-style-type: none">内蔵または外付けのストレージデバイスおよび接続された KVMs を使用するローカルインストール。Sun ILOM リモートコンソールまたはカスタム JumpStart を使用するネットワークインストール。	<ul style="list-style-type: none">付録 A サポートされるインストール方法『Solaris 10 10/09 インストールガイド (ネットワークインストール)』 (821-0617)『Solaris 10 10/09 インストールガイド (カスタム JumpStart/上級編)』 (821-0633)
RAID ボリュームの作成	起動ドライブを RAID 構成の一部にする場合は、ドライブで RAID ボリュームを設定する必要があります。オペレーティングシステムをインストールする前に、LSI 統合 RAID コントローラのセットアップユーティリティを使用します。	<ul style="list-style-type: none">『LSI MegaRAID SAS Software User's Guide』 <p>http://www.lsi.com/support/sun/</p>

注意事項	説明	詳細は、次を参照してください。
OS の新規インストール時の BIOS 設定の検証	オペレーティングシステムをインストールする前に、BIOS が出荷時のデフォルトプロパティに設定されていることを確認するようにしてください。	<ul style="list-style-type: none"> • 付録 C
オプションの追加ソフトウェアのインストール	オペレーティングシステムのインストールを実行したあとに、システムに関連のある重要な Solaris パッチのインストールが必要となる場合があります。Solaris パッチには、新機能、機能の強化、および既知の問題に対する修正が含まれています。	<ul style="list-style-type: none"> • 87 ページの「Oracle Solaris のインストール後の作業」
OS のインストールに関する最新情報とパッチの入手	『Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー製品ノート』を参照して、サポートされているオペレーティングシステムソフトウェアとパッチに関する最新情報を入手します。	<ul style="list-style-type: none"> • 『Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー 製品ノート』(821-1629)

インストール作業の概要

Solaris 10 10/09 オペレーティングシステムをインストールするには、次に示す作業をすべて順番に実行します。

1. Solaris10 10/09 オペレーティングシステムのインストールメディアを入手します。
Solaris オペレーティングシステムの DVD メディアはサーバーに付属しています。次の Web サイトからインストールメディアをダウンロードまたは注文できます。
(<http://www.sun.com/software/solaris/get.jsp>)
2. 提供されている Tools and Drivers DVD を入手するか、[付録 D](#) の説明に従ってサーバーの最新ドライバとユーティリティをダウンロードします。
3. [付録 A](#) を参考にして、Solaris インストールを配備するためのインストール方法を選択し設定します。
4. [第 10 章](#) で説明する、Solaris インストールの実行手順に従います。
5. [87 ページの「Oracle Solaris のインストール後の作業」](#) で説明する、Solaris のインストール後の作業を実行する手順に従います。

第10章

Oracle Solaris 10 のインストール

この章では、Oracle Solaris 10 10/09 オペレーティングシステム (Solaris 10 OS) を Sun Fire X4470 サーバーにインストールする方法について説明します。

この章では、次の項目について説明します。

- [73 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Solaris 10 のインストール」](#)
- [81 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Solaris 10 OS のインストール」](#)
- [87 ページの「Oracle Solaris のインストール後の作業」](#)

インストール済みの Oracle Solaris 10 OS イメージを設定する方法については、Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー設置マニュアル (821-1620) で設定手順を参照してください。

ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Solaris 10 のインストール

次の手順では、Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールをローカルまたはリモートのメディアから起動する方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースからインストールメディアを起動することを前提にしています。

- Oracle Solaris 10 10/09 以降のリリースの DVD セット (内蔵または外付けの DVD)
- Oracle Solaris 10 10/09 以降のリリースの ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – PXE 環境からインストールメディアを起動する場合は、[81 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Solaris 10 OS のインストール」](#) で手順を確認してください。

インストールを開始する前に

この節のインストール手順を開始する前に、次の要件を満たすようにしてください。

- オペレーティングシステムをインストールするための前提条件をすべて満たしている。これらの前提条件については、[第9章](#)を参照してください。
- インストールを実行する前に、使用するインストール方法 (コンソール、起動メディア、インストール先など) を決定して、設定が完了している。これらの設定に関する要件については、[付録 A](#) を参照してください。

この手順の完了後、この章で後述する、インストール後に必要な作業を確認して実行する必要があります。詳細は、[87 ページの「Oracle Solaris のインストール後の作業」](#)を参照してください。

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Solaris 10 のインストール

1. インストールメディアを起動できることを確認します。


- ディストリビューション DVD を使用する場合。ローカルまたはリモートの DVD-ROM ドライブに Oracle Solaris 10 DVD を挿入します。
- ISO イメージを使用する場合。ISO イメージが使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションが最初の ISO イメージの場所を認識していることを確認します。

インストールメディアを設定する方法については、[付録 A](#) を参照してください。


2. サーバーの電源をリセットします。

例:

- ILOM Web インタフェースで、「リモート制御 (Remote Control)」--> 「リモート電源制御 (Remote Power Control)」タブを選択し、次に 「Select Action」リストボックスから「リセット (Reset)」を選択します。
- ローカルサーバーの前面パネルにある電源ボタンを押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
- サーバー SP の ILOM CLI で、次のように入力します。 **reset /SYS**
BIOS 画面が表示されます。



www.ami.com



AMIBIOS (C) 2006 American Megatrends, Inc.
BIOS Date: 11/19/08 15:40:21 Ver: 08.00.15
Sun BIOS Revision: 07.01.30.00
Sun Fire X4170 Server CPU Power (TDP Limit) = 95 Watts
Product Serial Number:0000000000
CPU : Genuine Intel(R) CPU @ 0000 @ 2.67GHz
Speed : 2.66 GHz Count : 16

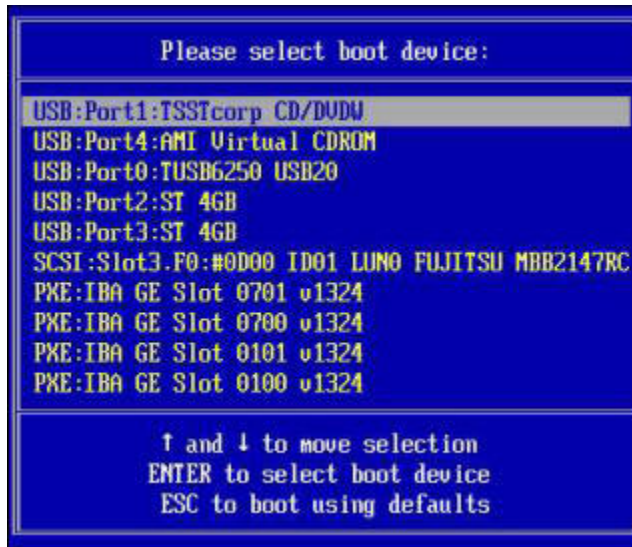
Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)
Press F12 if you want to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)
QPI Operational Speed at : 6.4GT/s
BMC Firmware Revision: 2.0.2.9
Initializing USB Controllers ..

(C) American Megatrends, Inc.

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、Solaris のインストールで使用する一時起動デバイスを指定します。

「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示されます。



4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、最初の (一時) 起動デバイスとして外付けまたは仮想 DVD デバイスを選択して、Enter キーを押します。
手順 3 に示す「起動デバイス (Boot Device)」メニューの例では、最初の起動デバイスとして仮想 DVD デバイスが指定されています。
「起動デバイス (Boot Device)」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。

注 – Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、リダイレクトされた DVD から Solaris のインストールを実行している場合は、「AMI Virtual CDROM」を選択します。この項目は、リダイレクトされた DVD からインストールを実行するときに、「起動デバイス (Boot Device)」メニューのオプションとして表示されません。

「GRUB」メニューが表示されます。

```
GNU GRUB version 0.95 (689K lower / 2087424K upper memory)

kernel /I86PC.Solaris_10-54/multiboot kernel/unix -B install_media=12→
module /I86PC.Solaris_10-54/x86.miniroot

Use the ↑ and ↓ keys to select which entry is highlighted.
Press 'b' to boot, 'e' to edit the selected command in the
boot sequence, 'c' for a command-line, 'o' to open a new line
after ('O' for before) the selected line, 'd' to remove the
selected line, or escape to go back to the main menu.
```

5. 「GRUB」メニューで、「Solaris_10 os」を選択し、Enter キーを押します。

注 - インストールの出力をシリアルコンソールにリダイレクトする場合は、「GRUB」メニューで「e」を押して、「GRUB」メニューを編集します。シリアルコンソールをサポートするには、カーネル行の起動フラグに **,console = ttya** を追加します。

Solaris ディスクイメージがメモリーに読み込まれます。このプロセスは数分かかる場合があります。完了すると、「インストールの種類 (Install Type)」メニューが表示されます。

```

WARNING: There will be no MCA support on chip 0 core 0 strand 5 (cmi_hdl_create
returned NULL)

WARNING: There will be no MCA support on chip 1 core 0 strand 5 (cmi_hdl_create
returned NULL)

WARNING: There will be no MCA support on chip 0 core 0 strand 7 (cmi_hdl_create
returned NULL)

WARNING: There will be no MCA support on chip 1 core 0 strand 7 (cmi_hdl_create
returned NULL)

Configuring devices.
/

1. Solaris Interactive (default)
2. Custom JumpStart
3. Solaris Interactive Text (Desktop session)
4. Solaris Interactive Text (Console session)
   (Select option 3 or 4 to install a ZFS root file system)
5. Apply driver updates
6. Single user shell

Enter the number of your choice.
Automatically continuing in 27 seconds

```

6. 「インストールの種類 (Install Type)」メニューで、インストールの実行に使用するインタフェースの種類を選択します。

- グラフィカルユーザインタフェース (デフォルト) - 1 を入力して Enter キーを押します。
- デスクトップセッションからのテキストインストーラ - 3 を入力して Enter キーを押します。
- コンソールセッションからのテキストインストーラ - 4 を入力して Enter キーを押します。

注 - 使用しているシステムで表示される画面は、手順 6 で設定したインタフェースの種類により異なります。この手順で示す以降の画面の例は、デフォルトのグラフィカルユーザインタフェース (Graphical User Interface、GUI) オプション (オプション 1) を選択した場合の画面です。

デバイスとインタフェースが検出され設定されます。キーボードが検出されると、「キーボードレイアウトの設定 (Configure Keyboard Layout)」メニューが表示されます。

```

Done mounting Live image
USB keyboard
 1. Albanian
 2. Belarusian
 3. Belgian
 4. Brazilian
 5. Bulgarian
 6. Canadian-Bilingual
 7. Croatian
 8. Czech
 9. Danish
10. Dutch
11. Finnish
12. French
13. French-Canadian
14. Hungarian
15. German
16. Greek
17. Icelandic
18. Italian
19. Japanese-type6
20. Japanese
21. Korean
22. Latin-American
23. Lithuanian
24. Latvian
25. Macedonian
26. Malta_UK
27. Malta_US
28. Norwegian
29. Polish
30. Portuguese
31. Russian
32. Serbia-And-Montenegro
33. Slovenian
34. Slovakian
35. Spanish
36. Swedish
37. Swiss-French
38. Swiss-German
39. Traditional-Chinese
40. TurkishQ
41. TurkishF
42. UK-English
43. US-English
To select the keyboard layout, enter a number [default 43]:

```

7. 「キーボードレイアウトの設定 (Configure Keyboard Layout)」メニューで適切なキーボードレイアウトを選択し、Enter キーを押します。

選択したキーボードレイアウトが設定され、設定ファイルが検索されます。

前の手順で GUI インストールを選択した場合は、次の 2 つの手順 (手順 8 と 9) で GUI が機能しているかどうかを確認します。前の手順で GUI インタフェースを選択していない場合は、手順 10 に進みます。

```

Discovering additional network configuration...

Starting Solaris Interactive (graphical user interface) Installation.

You must respond to the first question within 30 seconds
or the installer proceeds in a non-window environment
(console mode).

If the screen becomes blank or unreadable the installer
proceeds in console mode.

If the screen does not properly revert to console mode,
restart the installation and make the following selection:

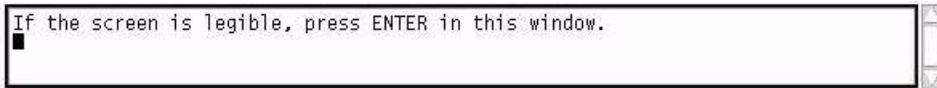
Solaris Interactive Text (Console session)

Press ENTER to continue.

```

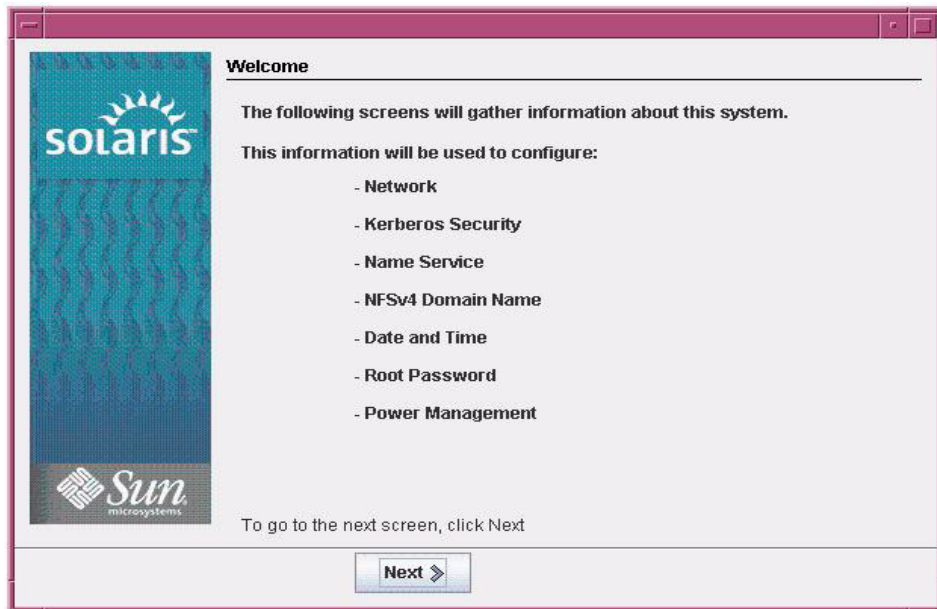
8. 「Discovering Network Configuration and Starting Solaris Interactive Installation」画面で、Enter キーを押します。

2 番目の画面が表示されます。ここで GUI が機能していることを確認します。



9. 表示されたテキストが判読可能な場合は、この画面で Enter キーを押します。
「言語の選択 (Language Selection)」メニューが表示されます。
10. 「言語の選択 (Language Selection)」メニューで、選択した言語 ID 番号 (0 - 9) を入力し、Enter キーを押します。
しばらくすると、「ようこそ (Welcome)」画面が表示されます。

注 – 次に示す画面の例は、GUI インストールプログラムを選択した場合の画面です。テキストベースのインストール用インタフェースを実行している場合は、テキストベースの「ようこそ (Welcome)」画面 (図では示しません) が表示されます。



11. 「ようこそ (Welcome)」画面で、「次へ (Next)」をクリックして、インストールを開始します。

すべてのシステム情報を事前に設定した場合、設定情報の入力を求めるプロンプトはインストールプログラムでは表示されません。一部のシステム情報があらかじめ設定されていない場合は、それらの情報を求めるいくつかの設定画面が表示されます。

12. 標準的な Solaris のインストールを続行します。必要な場合は、Solaris のドキュメントを参照して詳細情報を確認します。

インストールが完了すると、システムが自動的に再起動し (前の設定手順でこのオプションを選択した場合)、Solaris のログインプロンプトが表示されます。

注 – インストール完了時に自動的に再起動するようにシステムを設定しなかった場合は、システムを手動で再起動します。

13. [87 ページの「Oracle Solaris のインストール後の作業」](#)に進み、Solaris のインストール後の作業を実行します。

PXE ネットワーク環境を使用した Oracle Solaris 10 OS のインストール

次の手順では、Solaris オペレーティングシステムのインストールを PXE ネットワーク環境から起動する方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースからインストールメディアを起動することを前提にしています。

- Solaris 10 10/09 DVD セット (内蔵または外付けの DVD)
- Solaris 10 10/09 の ISO DVD イメージまたは Solaris JumpStart イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – JumpStart を使用すると、複数のサーバー上で Solaris オペレーティングシステムを最初に設定する際の、手動作業の一部または大部分を省略できます。JumpStart イメージの使用方法については、『Solaris 10 10/09 インストールガイド (カスタム JumpStart/上級編)』(821-0633) を参照してください。

インストールを開始する前に

Solaris 10 PXE インストールを開始する前に、次の要件を満たす必要があります。

- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアを起動するには、次の作業を完了しておくようにしてください。
 - インストールをエクスポートするように PXE 起動インストールサーバーを設定します。

注 – 複数の DHCP サーバーを含むサブネットでは、PXE ネットワーク起動は正常に機能しません。このため、インストール対象のクライアントシステムを含むサブネットでは、ただ 1 つの DHCP サーバーを設定する必要があります。

- Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを、PXE 起動インストールサーバーでクライアントシステムとして設定します。

ネットワークからの Solaris 10 の設定とインストールについては、『Solaris 10 10/09 インストールガイド (ネットワークインストール)』(821-0617) を参照してください。

- 使用するインストールメディアソースが JumpStart インストールイメージの場合、そのイメージを適切に準備してインストールできるようにします。このガイドでは、JumpStart インストールの正しい設定と配備の方法については説明しません。

Solaris JumpStart イメージの作成方法については、『Solaris 10 10/09 インストールガイド (カスタム JumpStart/上級編)』(821-0633) を参照してください。

次に示す手順の完了後、この章で後述するインストール後に必要な作業を確認して実行する必要があります。詳細は、[87 ページの「Oracle Solaris のインストール後の作業」](#)を参照してください。

▼ PXE ネットワーク起動を使用した Solaris 10 のインストール

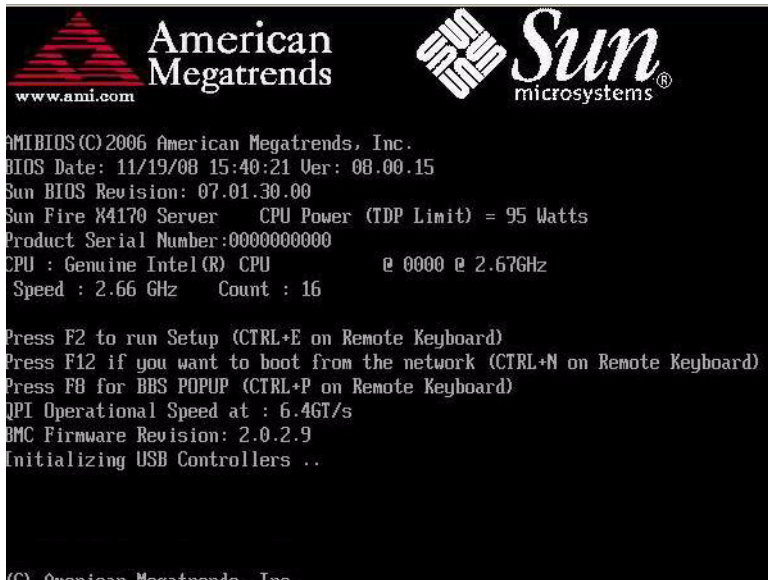
1. PXE ネットワーク環境が正しく設定され、Oracle Solaris のインストールメディアを PXE 起動で使用できることを確認します。

詳細は、『Solaris 10 10/09 インストールガイド (ネットワークインストール)』(821-0617) の「ネットワーク経由のインストールの計画」を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。

例:

- ILOM Web インタフェースで、「リモート制御 (Remote Control)」--> 「リモート電源制御 (Remote Power Control)」タブを選択し、次に 「Select Action」 リストボックスから 「電源サイクル (Power Cycle)」 を選択します。
- ローカルサーバーの前面パネルにある電源ボタンを押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を入れます。
- サーバー SP の ILOM CLI で、次のように入力します。 **reset /SYS**
BIOS 画面が表示されます。



```
www.ami.com American Megatrends Sun microsystems
AMIBIOS (C) 2006 American Megatrends, Inc.
BIOS Date: 11/19/08 15:40:21 Ver: 08.00.15
Sun BIOS Revision: 07.01.30.00
Sun Fire X4170 Server CPU Power (TDP Limit) = 95 Watts
Product Serial Number:0000000000
CPU : Genuine Intel(R) CPU @ 0000 @ 2.67GHz
Speed : 2.66 GHz Count : 16

Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)
Press F12 if you want to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)
QPI Operational Speed at : 6.4GT/s
BMC Firmware Revision: 2.0.2.9
Initializing USB Controllers ..

(C) American Megatrends, Inc.
```

注 ー 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、一時起動デバイスを指定します。
「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示されます。
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、適切な PXE 起動ポートを選択して、Enter キーを押します。
PXE 起動ポートは、ネットワークインストールサーバーと通信するように設定された物理ネットワークポートです。
「GRUB」メニューが表示されます。
5. 「GRUB」メニューで、「Solaris_10 os」を選択し、Enter キーを押します。

注 – インストールの出力をシリアルコンソールにリダイレクトする場合は、「GRUB」メニューで「e」を押して、「GRUB」メニューを編集します。シリアルコンソールをサポートするには、カーネル行の起動フラグに `,console = ttya` を追加します。

Solaris ディスクイメージがメモリーに読み込まれます。このプロセスは数分かかる場合があります。完了すると、「インストールの種類 (Install Type)」メニューが表示されます。

6. 「インストールの種類 (Install Type)」メニューで、インストールの実行に使用するインタフェースの種類を選択します。
 - グラフィカルユーザーインタフェース (デフォルト) - 1 を入力して Enter キーを押します。
 - デスクトップセッションからのテキストインストーラ - 3 を入力して Enter キーを押します。
 - コンソールセッションからのテキストインストーラ - 4 を入力して Enter キーを押します。

注 – 使用しているシステムで表示される画面は、手順 6 で設定したインタフェースの種類によって異なります。この手順で示す画面の例は、デフォルトのグラフィカルユーザーインタフェース (Graphical User Interface、GUI) オプション (オプション 1) を選択した場合の画面です。

デバイスとインタフェースが検出され設定されます。キーボードが検出されると、「キーボードレイアウトの設定 (Configure Keyboard Layout)」メニューが表示されます。

7. 「キーボードレイアウトの設定 (Configure Keyboard Layout)」メニューで適切なキーボードレイアウトを選択し、Enter キーを押します。
選択したキーボードレイアウトが設定され、設定ファイルが検索されます。
前の手順で GUI インストールを選択した場合は、次の 2 つの手順 (手順 8 と 9) で GUI が機能しているかどうかを確認します。前の手順で GUI インタフェースを選択していない場合は、手順 10 に進みます。

```
Discovering additional network configuration...

Starting Solaris Interactive (graphical user interface) Installation.

    You must respond to the first question within 30 seconds
    or the installer proceeds in a non-window environment
    (console mode).

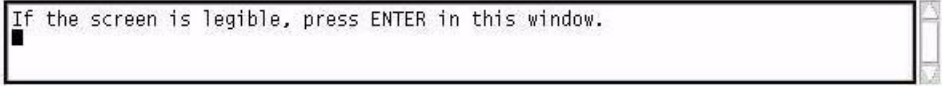
    If the screen becomes blank or unreadable the installer
    proceeds in console mode.

    If the screen does not properly revert to console mode,
    restart the installation and make the following selection:

    Solaris Interactive Text (Console session)

Press ENTER to continue.
```

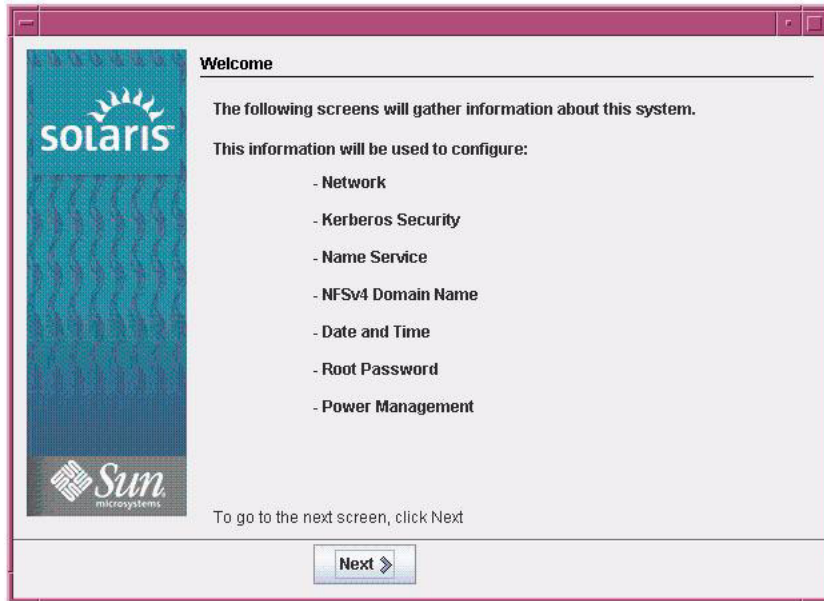
8. 「Discovering Network Configuration and Starting Solaris Interactive Installation」画面で、Enter キーを押します。
2 番目の画面が表示されます。ここで GUI が機能していることを確認します。



```
If the screen is legible, press ENTER in this window.
```

9. 表示されたテキストが判読可能な場合は、この画面で Enter キーを押します。
「言語の選択 (Language Selection)」メニューが表示されます。
10. 「言語の選択 (Language Selection)」メニューで、選択した言語 ID 番号 (0 - 9) を入力し、Enter キーを押します。
しばらくすると、「ようこそ (Welcome)」画面が表示されます。

注 - 次に示す画面の例は、GUI インストールプログラムを選択した場合の画面です。テキストベースのインストール用インタフェースを実行している場合は、テキストベースの「ようこそ (Welcome)」画面 (図では示しません) が表示されます。



11. 「ようこそ (Welcome)」画面で、「次へ (Next)」をクリックして、インストールを開始します。

すべてのシステム情報を事前に設定した場合、設定情報の入力を求めるプロンプトはインストールプログラムでは表示されません。一部のシステム情報があらかじめ設定されていない場合は、それらの情報を求めるいくつかの設定画面が表示されます。

12. 標準的な Solaris のインストールを続行します。必要な場合は、Solaris のドキュメントを参照して詳細情報を確認します。

インストールが完了すると、システムが自動的に再起動し (前の設定手順でこのオプションを選択した場合)、Solaris のログインプロンプトが表示されます。

注 – インストール完了時に自動的に再起動するようにシステムを設定しなかった場合は、システムを手動で再起動します。

13. [87 ページの「Oracle Solaris のインストール後の作業」](#)に進み、Solaris のインストール後の設定作業を実行します。

Oracle Solaris のインストール後の作業

Solaris のインストールと Solaris オペレーティングシステムの再起動が完了したら、次に示すインストール後の作業を確認し、使用しているシステムで該当する作業を必要に応じて実行します。

- 87 ページの「重要な Oracle Solaris パッチのインストール」
- 87 ページの「RAID 管理ソフトウェアのインストール」

重要な Oracle Solaris パッチのインストール

次の表に、使用しているシステムにインストールできる重要な Oracle Solaris パッチを示します。この表を参照して、使用しているシステムにインストールが必要なパッチがあるかどうかを判断してください。

表 10-1 重要な Solaris パッチ

重要な Solaris パッチ	説明	パッチのダウンロードサイト
142901-03	このパッチは起動時間を大きく短縮します。	
143524-01	このパッチは、Sun Storage 6 Gb SAS PCIe HBA (内蔵) が取り付けられたシステムに修正を提供します。	
142260-02	このパッチは、半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD) およびフラッシュデバイスにパフォーマンスに関する修正を提供します。	(www.sunsolve.sun.com)
143355-02	このパッチは、10 GbE Intel NIC (1109A) にパフォーマンスに関する修正を提供します。	
142085-03	このパッチは、qlc QLogic FC HBA ドライバに修正を提供します。	

RAID 管理ソフトウェアのインストール

サーバーに Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA が取り付けられている場合は、Sun RAID 管理ソフトウェアをインストールする必要があります。このソフトウェアは Tools and Drivers DVD に収録されています。RAID 管理ソフトウェアをインストールしない場合、Solaris OS はディスクエラーを検出および報告できません。

RAID 管理ソフトウェアのインストール方法については、HBA に付属のドキュメントか、次の Web サイトで入手できる『LSI MegaRAID SAS Software User's Guide』を参照してください。(<http://www.lsi.com/support/sun/>)

部 IV システム管理者のための参照情報

次に示すシステム管理者のための参照情報を必要に応じて使用し、ソフトウェアのインストールを実行または完了します。

説明	リンク
ソフトウェアインストールプログラムを配備するためのインストール環境の選択と設定に関するガイドライン	付録 A インストール方法
このドキュメントの発行時に、Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの完全なリスト	付録 B サポートされているオペレーティングシステム
ソフトウェアのインストールを実行する前に、BIOS のデフォルトプロパティが設定されていることを確認する手順	付録 C 新規インストール時の BIOS のデフォルト設定
Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー用の Tools and Drivers DVD の ISO イメージをダウンロードする手順	付録 D Tools and Drivers DVD の ISO イメージのダウンロード

付録 A

サポートされるインストール方法

サーバーにソフトウェアをインストールする最適な方法を決定するには、この付録で説明している次の内容を検討してください。

- [91 ページの「コンソール出力」](#)
- [93 ページの「インストール起動メディア」](#)
- [96 ページの「インストール先」](#)

コンソール出力

[表 A-1](#) に、オペレーティングシステムをインストールする際の出力と入力を取得できるコンソールを示します。

表 A-1 OS インストールを実行する際のコンソールオプション

コンソール	説明	セットアップ要件
ローカルコンソール	<p>ローカルコンソールをサーバー SP に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。</p> <p>ローカルコンソールの例として、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> シリアルコンソール VGA コンソール (USB キーボードおよびマウスを使用) 	<ol style="list-style-type: none"> ローカルコンソールをサーバーに接続します。 詳細は、『Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー設置マニュアル』(821-1620) の「サーバーのセットアップ」を参照してください。 ILOM プロンプトで、ILOM ユーザー名とパスワードを入力します。 シリアル接続の場合のみ、<code>start /SP/console</code> と入力して、ホストのシリアルポートとの接続を確立します。 ビデオ出力がローカルコンソールに自動的にルーティングされます。 <p>サーバー SP への接続の確立については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370) を参照してください。</p>
リモートコンソール	<p>サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うことができます。</p> <p>リモートコンソールの例には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続 シリアルコンソールを使用した SSH クライアント接続 	<ol style="list-style-type: none"> サーバー SP の IP アドレスを表示または設定します。 詳細は、『Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー設置マニュアル』(821-1620) を参照してください。 リモートコンソールとサーバー SP 間の接続を表示または確立します。 <ul style="list-style-type: none"> Web ベースのクライアント接続の場合は、次の手順を実行します。1) Web ブラウザにサーバー SP の IP アドレスを入力します。2) ILOM Web インタフェースにログインします。3) ILOM リモートコンソールを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。4) 「デバイス (Device)」メニューでデバイスの切り替え (マウス、キーボードなど) を有効にします。 SSH クライアント接続の場合は、次の手順を実行します。1) シリアルコンソールから、サーバー SP への SSH 接続を確立します (DNS を使用する場合は、<code>ssh root@hostname</code>、それ以外の場合は <code>ssh root@ipaddress</code>)。2) ILOM にログインします。3) <code>start /SP/console</code> と入力して、シリアル出力をサーバーから SSH クライアントにリダイレクトします。 <p>ILOM リモートコンソールを使用して ILOM SP とのリモート接続を確立する方法については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370) を参照してください。</p>

インストール起動メディア

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースを起動します。表 A-2 に、サポートされるメディアソースと、各ソースに必要なセットアップ要件を示します。

表 A-2 OS のインストールに使用できる起動メディア

インストールメディア	説明	セットアップ要件
ローカル起動メディア	<p>ローカル起動メディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。</p> <p>サポートされる OS のローカル起動メディアソースには、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">• CD/DVD-ROM インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア	<ol style="list-style-type: none">1. 使用しているサーバーに組み込み型ストレージデバイスがない場合は、サーバーの前面または背面パネルに適切なストレージデバイスを接続します。2. サーバーにローカルデバイスを接続する方法については、『Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー設置マニュアル』(821-1620) の「サーバーのセットアップ」を参照してください。

表 A-2 OS のインストールに使用できる起動メディア (続き)

インストールメディア	説明	セットアップ要件
リモート起動メディア	<p>リモートメディアでは、ネットワークを介してインストールを起動する必要があります。ネットワークインストールは、リダイレクトされた起動ストレージデバイスか、Pre-boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク上にインストールをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。</p> <p>サポートされる OS のリモートメディアソースには、次のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CD/DVD-ROM インストールメディア、および該当する場合はフロッピーデバイスドライブメディア • CD/DVD-ROM の ISO インストールイメージ、および該当する場合はフロッピーの ISO デバイスドライブメディア • 自動インストールイメージ (PXE 起動が必要) 	<p>リモートストレージデバイスから起動メディアをリダイレクトするには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 起動メディアを、次のようなストレージデバイスに挿入します。 <ul style="list-style-type: none"> • CD/DVD-ROM の場合、組み込み型または外付けの CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。 • CD/DVD-ROM ISO イメージの場合、ISO イメージがネットワーク共有された場所ですぐに利用できることを確認します。 • デバイスドライバフロッピー ISO イメージの場合、ISO イメージ (該当する場合) がネットワーク共有された場所または USB ドライブ上ですぐに利用できることを確認します。 • デバイスドライバフロッピーメディア (該当する場合) の場合、フロッピーメディアを外付けのフロッピードライブに挿入します。 2. サーバーの ILOM SP に Web ベースのクライアント接続を確立し、ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動します。 <p>詳細は、表 A-1 に示す Web ベースのクライアント接続に関するセットアップ要件を参照してください。</p> 2. ILOM リモートコンソールアプリケーションの「デバイス (Device)」メニューで、次のように起動メディアの場所を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • CD/DVD-ROM 起動メディアの場合は、「CD-ROM」を選択します。 • CD/DVD-ROM の ISO イメージの場合は、「CD-ROM Image」を選択します。 • フロッピーデバイスドライブ起動メディアの場合は、「Floppy」を選択します (該当する場合)。 • フロッピーイメージのデバイスドライブ起動メディアの場合は、「フロッピーイメージ (Floppy Image)」を選択します (該当する場合)。 <p>ILOM リモートコンソールについては、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』(820-7370) を参照してください。</p>

表 A-2 OS のインストールに使用できる起動メディア (続き)

インストールメディア	説明	セットアップ要件
リモート起動メディア (続き)	<p>注 - 自動インストールイメージを使用すると、複数のサーバーで OS のインストールを実行できます。自動イメージを使用すると多くのシステムで設定を統一できます。</p> <p>自動インストールでは、Pre-boot eXecution Environment (PXE) 技術を使用し、オペレーティングシステムがインストールされていないクライアントをリモートで起動して、自動インストールサーバーからオペレーティングシステムをインストールします。</p>	<p>PXE を使用してインストールを実行するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PXE 起動経由でインストールをエクスポートするようにネットワークサーバーを設定します。 2. OS インストールメディアを PXE 起動で利用できるようにします。 <p>自動 OS インストールイメージを使用する場合は、次のような自動 OS インストールイメージを作成する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Solaris JumpStart イメージ • RHEL KickStart イメージ • SLES AutoYaST イメージ • Windows WDS イメージ <p>インストールのセットアッププロセスを自動化する方法については、オペレーティングシステムベンダーのドキュメントを参照してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インストールメディアを起動するには、一時起動デバイスとして PXE 起動インタフェースカードを選択します。 <p>詳細は、このガイドで前述した PXE ベースのオペレーティングシステムインストール手順を参照してください。</p>

インストール先

表 A-3 に、オペレーティングシステムのインストールに使用できる、サポートされるインストール先を示します。

表 A-3 OS インストールのインストール先

インストール先	説明	セットアップ要件	サポートされる OS
ローカルストレージドライブ ハードディスクドライブ (Hard Disk Driver, HDD) または 半導体ドライブ (Solid State Drive, SSD)	オペレーティングシステムは、モジュールに設置された任意のストレージドライブを選択してインストールできます。	<ul style="list-style-type: none">• HDD または SSD がサーバーに正しく取り付けられていて、電源が入っていることを確認します。 HDD または SSD の取り付けと電源の投入方法については、各サーバーモデルのサービスマニュアルを参照してください。 <ul style="list-style-type: none">• 『Sun Fire X4170 M2 Server Service Manual』 (821-0486)• 『Sun Fire X4270 M2 Server Service Manual』 (821-0488)	<ul style="list-style-type: none">• 付録 B に示す、サポートされるすべてのオペレーティングシステム。
ファイバチャネル (Fibre Channel, FC) Storage Area Network (SAN) デバイス	ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (Host Bus Adapter, HBA) を備えたサーバーでは、オペレーティングシステムを外部 FC ストレージデバイスにインストールするように選択できます。	<ul style="list-style-type: none">• FC PCIe HBA がサーバーに正しく設置されていることを確認します。 PCIe SAS HBA オプションの設置方法については、各サーバーモデルのサービスマニュアルを参照してください。 <ul style="list-style-type: none">• 『Sun Fire X4170 M2 Server Service Manual』 (821-0486)• 『Sun Fire X4270 M2 Server Service Manual』 (821-0488) ホストでストレージを認識できるように SAN を設置および設定します。手順については、FC HBA に付属のドキュメントを参照してください。	<ul style="list-style-type: none">• 付録 B に示す、すべてのオペレーティングシステム。

付録 B

サポートされているオペレーティングシステム

この付録の表 B-1 に、このドキュメントの公開時に Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムを示します。

Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの最新のリストについては、次の Web サイトを参照してください。

- (<http://www.sun.com/servers/x64/x4170/os.jsp>)
- (<http://www.sun.com/servers/x64/x4270/os.jsp>)

サポートされているオペレーティングシステム

Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーは、次のオペレーティングシステムまたはその後継のリリースのインストールおよび使用をサポートしています。

表 B-1 サポートされているオペレーティングシステム

オペレーティングシステム	サポートされているバージョン	追加情報
Windows	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft Windows Server 2008 SP2、 Standard Edition (64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 SP2、 Enterprise Edition (64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 SP2、 Datacenter Edition (64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 R2、 Standard Edition (64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 R2、 Enterprise Edition (64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 R2、 Datacenter Edition (64 ビット)	<ul style="list-style-type: none">• 『Windows オペレーティングシステムの Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー設置マニュアル』 (821-1626)
Linux	<ul style="list-style-type: none">• Oracle Enterprise Linux (OEL) 5.4 (64 ビット)• SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 10 SP3 (64 ビット)• SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 (64 ビット)• Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.4 (64 ビット)	<ul style="list-style-type: none">• 第 3 章 OEL のインストール• 第 4 章 SLES のインストール• 第 5 章 RHEL のインストール
Solaris	<ul style="list-style-type: none">• Oracle Solaris 10 10/09	<ul style="list-style-type: none">• 第 9 章
仮想マシンソフトウェア	<ul style="list-style-type: none">• Oracle VM 2.2.1• VMware ESX Server 4.0.1• VMware ESXi Server 4.0.1	<ul style="list-style-type: none">• 第 7 章 Oracle VM のインストール• 第 8 章 VMware のインストール

新規インストール時の BIOS のデフォルト設定

ストレージデバイスにオペレーティングシステムを新規インストールする場合は、オペレーティングシステムまたは仮想マシンソフトウェアのインストールを実行する前に、次の BIOS 設定が適切に設定されていることを確認するようにしてください。

- システム時刻
 - システム日付
 - 起動順序
-

BIOS の出荷時デフォルト設定の確認

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて BIOS 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。BIOS 設定ユーティリティ (F2 キー) で変更した設定はすべて、次回に設定変更するまで常時使用されます。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集できるほか、BIOS の起動中に F8 キーを使用することで、一時起動デバイスを指定できます。F8 キーを使用して一時起動デバイスを設定した場合、この変更は現在のシステム起動のみで有効です。一時起動デバイスで起動したあとは、F2 キーで指定した常時起動デバイスが有効になります。

インストールを開始する前に

BIOS 設定ユーティリティーにアクセスする前に、次の要件を満たしていることを確認します。

- サーバーにハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) または半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD) が搭載されている。
- HDD または SSD がサーバーに適切に設置されている。手順については、各サーバーモデルのサービスマニュアルを参照してください。
 - 『Sun Fire X4170 M2 Server Service Manual』 (821-0486)
 - 『Sun Fire X4270 M2 Server Service Manual』 (821-0488)
- サーバーへのコンソール接続が確立されている。詳細は、[92 ページの「OS インストールを実行する際のコンソールオプション」](#)を参照してください。

▼ 新規インストール時の BIOS 設定の表示または編集

1. サーバーの電源をリセットします。

例:

- **ILOM Web インタフェース**で、「リモート制御 (Remote Control)」--> 「リモート電源制御 (Remote Power Control)」を選択し、ドロップダウンリストから「リセット (Reset)」を選択します。
- **ローカルサーバーの前面パネル**にある電源ボタンを (約 1 秒) 押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。

BIOS 画面が表示されます。

2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティーが表示されます。

3. 出荷時のデフォルト値に設定するために、次の手順を実行します。

- a. F9 キーを押すと、最適な出荷時のデフォルト設定が自動的に読み込まれます。メッセージが表示され、「OK」を選択してこの操作を続けるか、「取り消し (Cancel)」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。
- b. メッセージで「OK」を強調表示して、Enter を押します。

BIOS 設定ユーティリティー画面が表示され、システム時刻フィールドの最初の値でカーソルが強調表示されます。

4. BIOS 設定ユーティリティーで次の手順を実行して、システム時刻またはシステム日付に関係する値を編集します。
 - a. 変更する値を強調表示します。

上下の矢印キーを使用して、システムの時刻と日付の選択を変更します。
 - b. 強調表示されたフィールドの値を変更するには、次のキーを使用します。
 - プラス (+) を押すと、表示されている現在の値が増加します。
 - マイナス (-) を使用すると、現在表示されている値が減少します。
 - Enter キーを押すと、カーソルが次の値フィールドに移動します。
5. 起動設定にアクセスするには、「起動 (Boot)」メニューを選択します。

「起動設定 (Boot Settings)」メニューが表示されます。
6. 「起動設定 (Boot Settings)」メニューで、下矢印キーを使用して「起動デバイスの優先順位 (Boot Device Priority)」を選択し、Enter キーを押します。

「起動デバイスの優先順位 (Boot Device Priority)」メニューが表示され、認識されている起動デバイスの優先順位が示されます。リストの先頭のデバイスが、起動の優先度がもっとも高いデバイスです。
7. 「起動デバイスの優先順位 (Boot Device Priority)」メニューで次の手順を実行して、リストの最初の起動デバイスエントリを編集します。
 - a. 上下矢印キーを使用してリストの先頭のデバイスを選択し、Enter キーを押します。
 - b. 「オプション (Options)」メニューで、上下矢印キーを使用してデフォルトの常時起動デバイスを選択し、Enter キーを押します。

注 - 変更する各デバイス項目に対して手順 7a および 7b を繰り返して、リスト内のほかのデバイスの起動順を変更できます。

「起動 (Boot)」メニューおよび「オプション (Options)」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列で構成されています。

8. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了するには、F10 キーを押します。

または、「終了 (Exit)」メニューで「保存 (Save)」を選択して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティーを終了することもできます。変更を保存して設定を終了することを確認するメッセージが表示されます。メッセージのダイアログで「OK」を選択して、Enter キーを押します。

注 - ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 キーはローカル OS にトランプされます。コンソールの一番上で使用できる「キーボード (Keyboard)」ドロップダウンメニューに一覧表示される F10 オプションを使用してください。

付録 D

Tools and Drivers DVD の ISO イメージのダウンロード

サーバーに Tools and Drivers DVD が付属していない場合、またはサーバー付属の Tools and Drivers DVD にサーバー用の最新のツールとファームウェアが含まれているかどうかを確認する必要がある場合は、この付録のダウンロード手順を使用します。

ISO イメージのダウンロード手順

Tools and Drivers DVD の ISO イメージをダウンロードするには、次の手順を実行します。

▼ Tools and Drivers DVD イメージのダウンロード

1. 各サーバープラットフォームのソフトウェアダウンロードサイトにアクセスします。
 - (<http://www.sun.com/servers/x64/x4170/downloads.jsp>)
 - (<http://www.sun.com/servers/x64/x4270/downloads.jsp>)
2. Tools and Drivers DVD の ISO イメージを選択して、アクセス可能なネットワーク上の場所またはローカルストレージ上にダウンロードします。
3. 次のいずれかの方法を使用して、ISO イメージをインストールする準備を行います。
 - リモート KVM (ILOM リモートコンソール) を使用して、ISO イメージをマウントします。
 - 他社のソフトウェアを使用して、Tools and Drivers DVD を作成します。

索引

A

AutoYaST
SLES OS, 32

B

BIOS
出荷時のデフォルト設定の確認, 99
新規インストール時の設定の検証, 9
設定の編集および表示手順, 100
電源投入時の自己診断テスト画面, 75

D

DHCP サーバー
推奨される数, 82

G

GRUB メニュー
Solaris OS, 77

I

ISO イメージ
RHEL5 OS, 39

J

JumpStart ユーティリティ
Solaris OS, 81

L

Linux OS
RAID ボリュームのディスク要件, 9
インストールの前提条件, 9
サポートされているオペレーティングシステム, 8

M

MAC ネットワークポートアドレス, 82

O

OEL OS
PXE ネットワークインストール, 18
インストール後の作業, 20
インストール方法, 14
サーバーの電源のリセット, 15
自動更新, 18, 20
ローカルメディアまたはリモートメディアを使用したインストール, 14

Oracle Enterprise Linux
「OEL OS」を参照

Oracle VM

VM Manager のインストール手順, 53
VM Server のインストール手順, 52
インストール後の作業, 54
メディアを使用したインストールの手順, 51

P

PXE インストール
SLES OS, 33
Solaris OS, 81
OEL OS, 19
RHEL OS, 43

R

RAID ボリュームの作成, 70
RAID 管理ソフトウェア, 87

RedHat Enterprise Linux

「RHEL OS」を参照

RHEL OS

- PXE ネットワークインストール, 42
- 一時起動デバイス, 44
- インストール後の作業, 44
- インストール方法, 38
- 自動更新, 42
- ローカルメディアまたはリモートメディアを使用したインストール, 38

RHEL5 OS

- ISO イメージ, 39
- 起動ディスクイメージ, 39

S

SIA

- ソフトウェアダウンロード URL, 4
- ドキュメント URL, 5
- 概要, 3

SLES 11

- ストレージドライバの要件, 10

SLES OS

- AutoYaST, 32
- PXE ネットワークインストール, 32
- PXE ブート, 33
- SLES 10 SP3 メディアを使用したインストール, 23
- SLES 11 のローカルメディアまたはリモートメディアを使用したインストール, 26
- YaST オンラインアップデート, 34
- アップデート, 34
- インストール後の作業, 34
- インストール方法, 23
- サーバーの電源のリセット, 26, 33
- 自動インストールの準備, 32

SLES OS のインストール

- SLES 10 SP3 メディアを使用したインストール, 23

Solaris OS

- ILOM Web インタフェース, 74, 83
- JumpStart ユーティリティ, 81
- Sun ILOM リモートコンソールアプリケーション, 76
- 「Welcome (ようこそ)」画面, 85, 81
- 一時起動デバイス, 75

インストール

GRUB メニュー, 77

インストール後の作業, 87

「インストールの種類 (Install Type)」メニュー, 78

「起動デバイス (Boot Device)」メニュー, 76

「言語の選択 (Language Selection)」メニュー, 80, 85

サーバーの電源のリセット

サポートされるインタフェース, 74, 83

テキストベースの「ようこそ (Welcome)」画面, 86, 80

デバイス文字列, 76

ドキュメント, 70

パッチ, 87

ローカルまたは遠隔メディアの使用, 73

「キーボードレイアウトの設定 (Configure Keyboard Layout)」メニュー, 78, 85

「ネットワーク構成の検出 (Discovering Network Configurations)」画面, 80, 85

Solaris OS のインストール

PXE ベースのネットワークからの遠隔メディアの使用, 81

インストール前の注意事項, 70

キーボードレイアウトの選択, 79, 85

作業の概要, 71

サポートされるインタフェースの種類, 78

ローカルまたは遠隔メディアの使用, 74

言語の選択, 80

自動再起動, 86

準備すべき事柄, 74

追加ソフトウェア, 87

Sun ILOM リモートコンソールアプリケーション

Solaris OS のインストール, 76

Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID HBA, 87

SUSE Linux Enterprise Server

「SLES OS」を参照

T

Tools and Drivers DVD, 10, 87

ISO イメージのダウンロード, 103

Trusted Platform Module (TPM) の設定, 20, 35

V

VMware ESX および ESXi

- インストール後の作業, 61
- ネットワークアダプタの設定, 61
- メディアを使用したインストールの手順, 55

VMware ESXi

- 表示されないローカルストレージドライブ, 64

VMware OS

- アップデートおよびパッチ, 65
- サーバー電源のリセット, 57

VMware ソフトウェア

- リモートコンソールからのインストール, 55

W

- 「Welcome (ようこそ)」画面, 81, 85

い

一時起動デバイス

- RHEL OS, 44
- Solaris OS, 75

インストール後の作業

- OEL OS, 20
- RHEL OS, 44
- SLES OS, 34
- Solaris OS, 87

「インストールの種類 (Install Type)」メニュー

- Solaris OS, 78

インストール方法

- サポートされるインストール先, 96
- サポートされる起動メディア, 93
- サポートされるコンソール出力, 91

き

「キーボードレイアウトの設定 (Configure

- Keyboard Layout)」メニュー
- Solaris OS, 78, 85

起動ディスクイメージ

- RHEL5 OS, 39

「起動デバイス (Boot Device)」メニュー

- Solaris OS, 76

け

「言語の選択 (Language Selection)」メニュー

- Solaris OS, 80, 85

さ

サーバー

- サーバーの電源のリセット, 26
- 電源のリセット, 23, 57

サーバーの電源の投入, 74

サポートされているオペレーティングシステム

- 最新リストの URL, 97
- Sun Fire X4470 サーバー, 98

サポートとトレーニング, xi

サポートされているオペレーティングシステム

- 最新リストの URL, 97

し

自動更新

- OEL OS, 18
- RHEL OS, 42

せ

製品アップデート

- ダウンロード, ix

て

テキストベースの「ようこそ (Welcome)」画面, 86

デバイス文字列

- Solaris OS, 76

と

トレーニング

- 入手場所, xii

ね

「ネットワーク構成の検出 (Discovering Network

- Configurations)」画面
- Solaris OS, 80

「ネットワーク構成の検出 (Discovering Network

- Configurations)」画面
- Solaris OS, 85

は

パッチ

- Solaris OS, 87

ま

マニュアルセット, x

